



大妻女子大学 国際センター 事業と実績

国際交流のすすめ



2019年3月 発行

CONTENTS

はじめに	01
国際センターの主な活動について	02
海外協定校・研修校一覧	02
留学の目的	04
各種留学プログラム	04
短期研修	05
長期留学・交換留学	07
海外ボランティア	10
ACEJ短期語学研修	12
ウエスタン・シドニー大学英語+キャビンクルートレーニングプログラム研修	14
国際センター受け入れ留学生について	15
安全と危機管理	17
留学お役立ち情報	18
特別講座／異文化交流イベント	20
教員紹介	21
海外研修・留学プログラム 参加者の声	21
国際センターインフォメーション	46

若者たちの力強い活躍に期待——国際舞台での過去・現在・未来へ

今世紀に入り、情報の急速な進化がなされ、AIの活躍する社会も現実視されている。つい、150年程前は、鎖国により諸国との交流も無く、動力も人力、馬力が主流で、電車は勿論、蒸気機関車などもなかった時代であったことが嘘のように感じられる。

教育界もまた、強力にグローバル化が推進されている。それは教育の第三の波と言ってもよい。第一波は鎖国が解かれた頃の、幕末から日本の近代化への動きと共にあり、第二波は第二次世界大戦後のアメリカを模範とした制度化。それにより結果した負に対する反省が、今の第三の波となる。つまり、小規模な藩校から近代的な学校制度へ、その後の第二次世界大戦の敗戦を機に、欧米に追い付き追い越すための知識偏重・注入型による、学士の大量生産・大量社会放出に繋がった。第三波は、知識活用型人間の育成である。インターネットの普及を経て、現在は国境を越えたボーダレスの世界となり、自由に個人が全世界に発信できる。そのため、個人の資質と能力が問われ、個の多様性が重視され、一人ひとりが自分の意見を組み立て、自分の言葉で発信し、課題解決へと共生できる力が重視されている。このような多面的評価にたえられる論理的な思考力、多彩な体験により未知の課題を解決できる知識活用型の国際人・地球市民になれるのは、若者が一番ふさわしい。丁度、明治維新とその後の文化変革を促進したのが、当時の若者たちであったことと符合する。

21世紀となった現在、時代の潮流が変わり、従来の価値観では対応しきれない局面を迎えている状況にあっては、今再び若者たちの力が時代をリードするのが、歴史の必然である。幕末の1863年に長州から五人の藩士が切腹覚悟の密航を挙行し留学した。渡英した5人は、のちの内閣の伊藤博文を含む、外交の井上馨、工学の山尾庸三など、当時20歳代の若者たちだった。それに続いた19人の薩摩藩士は、渡英時18歳の初代文部大臣の森有礼をはじめ、13歳や14歳も含めた若者達であった。その者達は、教育・外交・文化、そしてワインやビールといった食文化にまで多彩に日本の近代化を推進した。

若い学生の皆様は、かつての若者たちのように切腹を覚悟することもなく、短時間で移動できる飛行機を使い、外国に留学し修学する環境が用意されている。くわえて、自国にあって、諸外国からの留学生とも交流することができ、150年前とは比較にならないくらい恵まれた状況下にある。こうした現代の利点を最大限生かす学生生活を過ごされることを希望し、時代を大きく転換する指導的役割を果たすよう、国際舞台で未来を切り開く国際交流活動を担っていくことを期待し、国際センターは若い皆様に心より応援し、支援致します。

大妻女子大学 国際センター所長 井上 美沙子

国際センターの主な活動について

- 1) 本学学生の留学への送り出し
- 2) 外国人留学生の受け入れ
- 3) 留学生の送り出し、受け入れに必要な教育・学習
- 4) 留学生の送り出し、受け入れにともなう危機管理
- 5) 受け入れ留学生と本学学生との交流推進

■留学への送り出し

- ①留学事前・事後の学習として異文化理解講座、学内留学体験講座等を開設しています。
- ②帰国後に留学の成果を生かしキャリア形成につなげるための特別講座や、プレゼンテーション能力の養成を目的としたスピーチコンテストを開催しています。
- ③危機管理に関する学習プログラムとして「危機管理オリエンテーション」などを開催するとともに、日常的な危機管理体制を維持・運用しています。

■外国人留学生の受け入れ

- ①「読解」「聴解」「文章表現」「口頭表現」「総合」「日本語能力試験対策」などの日本語教育プログラムを開設。
- ②日本文化に関する学習の一環として、「映画から見る日本文化」「日本の漫画とその文化」「日本語と日本の文化」「日本の文学（近・現代）」「日本の家政学」などの講座を開設、また、学内・外の様々な施設を訪問したり、各種イベントに参加するプログラムも用意されています。
- ③本学で学ぶ留学生のための、奨学金や学生納付金減免手続きを行っています。

海外協定校・研修校一覧

国	大学	対象	特徴
アメリカ	セント・ジョセフ大学	-	1932年に創立された学生総数約1,500名の女子大学。先進的・先導的な幼児教育・特別支援教育が行われています。
	マレー州立大学	全学部／全学科	1922年に創立された州立大学。人口2万人のケンタッキー州マレー市に位置し、留学生を含むおよそ1万人の学生が学んでいます。
	ユタ大学	-	1850年創立された州立大学。ミシシッピ以西でできた初期の大学。キャンパスは、ユタ州の州都ソルトレークシティに位置しています。
	カリフォルニア大学リバーサイド校	全学部／全学科	1954年創立。カリフォルニア大学群のうちの一枚。メインキャンパスはカリフォルニア州リバーサイドにあります。
	カリフォルニア州立大学チコ校	全学部／全学科	1887年創立。カリフォルニア州立大学機構のうちの一枚で、同州チコに立地する州立大学。チコ校の学生数は約14,000人で、キャンパスには近代的なビルが立ち並びます。
	ポートランド州立大学	全学部／全学科	1946年創立。オレゴン州では唯一主要都市部に位置する州立大学で、市内に広大なキャンパスを持つオレゴン州最大の大学。学生は約25,000名以上で、特に経営学、教育学、理工学の研究領域が有名です。
	ニューヨーク大学	全学部／全学科	1831年創立。ニューヨークのマンハッタン地区にキャンパスを構える全米有数の私立総合大学で、数多くの著名人を輩出しています。
カナダ	ダグラスカレッジ	全学部／全学科	1970年創立。英語研修プログラムを履修した後、所定の英語力が認定されると、カナダ人学生と共に学ぶアカデミックプログラムを履修できます。
	ブリティッシュ・コロンビア大学	全学部／全学科	1908年創立。学生総数約5万人のカナダ西部最大の研究総合大学。夏期語学研修では英語学習のほか、ホームステイを通しカナダ社会への理解を深めます。
中国	北京師範大学	全学部／全学科	1902年創立。国際交流に力を入れ、50以上の国から集まった2,000人余りの留学生が寮生活をしながら、学んでいます。

中国	南開大学	比較文化学部	中国トップクラスの総合大学で、中国語コミュニケーションの能力を高めます。
	雲南大学	受け入れのみ	1922年創立。西部エリアでは、特に古い歴史を誇る大学です。
	大連外国語大学	全学部／全学科	1964年創立の外国語大学。日本語教育においては中国国内ではトップクラスです。
台湾	国立台北教育大学	—	台湾を代表する国立の教育大学です。教育大学ならではのカリキュラムや指導方法で、効果的に中国語を学ぶことができます。
	国立台湾師範大学	短期研修対象	台湾で最も歴史のある中国語教育機関。語学の授業や校外実習が充実しており、日本語のできるスタッフが常駐しています。
		長期留学対象	
国立台湾大学	全学部／全学科	1945年に設立された台湾一大きな国立大学です。台湾で最も権威のある大学として有名です。6つのキャンパス、11学部、54学科を設け、3万人以上の学生が通っています。	
韓国	国民大学校	全学部／全学科	1946年創立。ソウル市に設立された人文学部・社会科学部・法学部・経営学部・工学部・自然科学部など16学部をはじめ大学院14研究科、約2万人の学生が在学している総合大学で、交換留学生も毎年100名以上受け入れています。
	梨花女子大学校	全学部／全学科	1886年に米国の宣教師メアリー・スクラントンによって創設された韓国最初の女子大学。2万人を超える学生を有し、女子大学としては世界最大規模です。
	明知大学校	全学部／全学科	1948年に創立された韓国の名門キリスト教私立大学です。約30カ国450人余りの外国人学生が、韓国人の学生と一緒に勉強しています。
オーストラリア	ディーキン大学	全学部／全学科	1974年創立。ビクトリア州内に4つのキャンパス（メルボルン市内及び郊外があります。）メインキャンパスのパーウッドキャンパスは活気ある都市型キャンパスで、12,000人以上の学部生、院生が学んでいます。
	モナシュ大学	短期研修対象	1958年創立の州立大学。ビクトリア州内に5つのキャンパス（メルボルン市内及び郊外）と海外キャンパス（南アフリカ、マレーシア）がある国際色豊かな総合大学です。
長期留学対象		比較文化学部	
イギリス	オックスフォード大学 ハートフォードカレッジ	短期研修対象	1282年に設立されたオックスフォード大学の構成カレッジの一つ。学生総数は約600名ほどで、世界各国から留学生が集まる名門大学です。
		長期留学対象	
	ロンドン大学	文学部英語英文学科／英文学科	ロンドン大学UCL校はロンドン中心部に位置し、1826年に創立されたロンドン大学機構最古の大学です。
スターリング大学	全学部／全学科	1967年創立の国立大学。14,000人以上の学部生・院生を有し、留学生も120ヶ国以上、約2,800人が学ぶ。広大なキャンパスは「英国で最も美しいキャンパス」と呼ばれています。	
ドイツ	フライブルク大学	全学部／全学科	1457年創立。フライブルク・イム・プライスガウにあるドイツでも最も古い大学の一つ。夏期語学研修では、ドイツ語初心者のために解説されるサマープログラムを受講し、ドイツ語とドイツ文化を学びます。
	ミュンスター大学	比較文化学部	18世紀に創立されたミュンスター大学の附属機関でドイツ語とドイツ文化を学びます。ミュンスターは中世よりある北ドイツの街です。30年戦争を終結させたウェストファーレン条約が締結された街でもあり、ヨーロッパの波乱に満ちた歴史を感じさせます。8月から12月の長期研修は、ホームステイで現地の生活が体験できます。
フランス	レンヌ 第2大学	全学部／全学科	レンヌ大学（1735年設立）から第1・第2に分割される形で1969年に設立された歴史ある国立大学。夏期語学研修では、大学付属のフランス語教育センターで行われる「フランス語と文化コース」に参加し、フランス語の授業を受けます。
スペイン	サン・ホルヘ大学	比較文化学部	短期研修は、ユネスコ世界遺産であるクエンカ市とサン・ホルヘ大学が提携する「ほんもののスペイン体験」というプログラムで、町ぐるみで留学生をサポートします。語学と同時にスペイン文化を学ぶカリキュラムが組まれています。

留学の目的

大妻女子大学は、ディプロマ・ポリシーのなかで「グローバル化した社会において、自己の未来を切り開いていく能力」を身につけることを掲げている。国際センターは、ディプロマ・ポリシーに即した人材とすべく、国内外共に常に時代の変化に適応し「学び働き続ける女性」として社会のあらゆる分野に主体的に参画貢献できる自立した女性の育成を目指しています。

留学において、主体的に学ぶ習慣や、多様性を理解し様々な人と協働できるコミュニケーション能力を持った女性の育成を目指しています。

各種留学プログラム

■短期研修

短期研修は夏季休業期間や春季休業期間を利用して実施される1ヶ月前後の研修で、アメリカ、カナダ、オーストラリア、中国、台湾、韓国、イギリス、ドイツ、フランスなどの大学キャンパス内での語学研修や文化体験を主目的としたプログラムです。滞在方法も大学の寮やホームステイなどから選ぶことができます。

1学期間や1年間といった長期留学への参加が難しい学生や、長期留学の事前準備として参加するケースも多く見られます。

留学後、必要な手続きを行うことにより卒業要件の単位に認定されます。

■長期留学・交換留学

大妻女子大学が協定を結ぶ、アメリカ、カナダ、オーストラリア、中国、台湾、韓国などの大学に、1学期間または1年間留学するプログラムで、留学期間中に所定のレベルに到達すると現地の学生とともに大学の正規科目を受講できる場合もあります。

なお、長期留学では留学期間中の学納金は、授業料は免除され、教育充実費のみ納入します（留学先の学費は納入します）。

また、交換留学では留学期間中の学納金は大妻女子大学に納入します（交換留学先の学納金は免除となりますが、寮費などの支払いが必要です）。

協定校への長期留学・交換留学では、留学期間は在学年数として認められ、留学先で得た単位を本学の単位として認定する制度があります。卒業までに必要な単位を取得すれば、通常の修業年限での卒業が可能となる場合もあります。

■海外ボランティア

国際教育交換協議会（CIEE）が主催する海外ボランティアプログラムを紹介しています。事後、必要な手続きを行うことにより卒業に必要な単位として認められます。

■ACEJ短期語学研修

一般財団法人JSAF（日本スタディ・アブロード・ファンデーション）が主催する短期語学研修を紹介しています。留学後、必要な手続きを行うことにより卒業に必要な単位として認められます。

■ウエスタン・シドニー大学英語+キャビクルートレーニングプログラム研修

エスティーエートラベル主催が主催するウエスタン・シドニー大学内ランゲージセンターで語学研修とカンタス航空のキャビクルートレーニングを紹介しています。留学後、必要な手続きを行うことにより卒業に必要な単位として認められます。

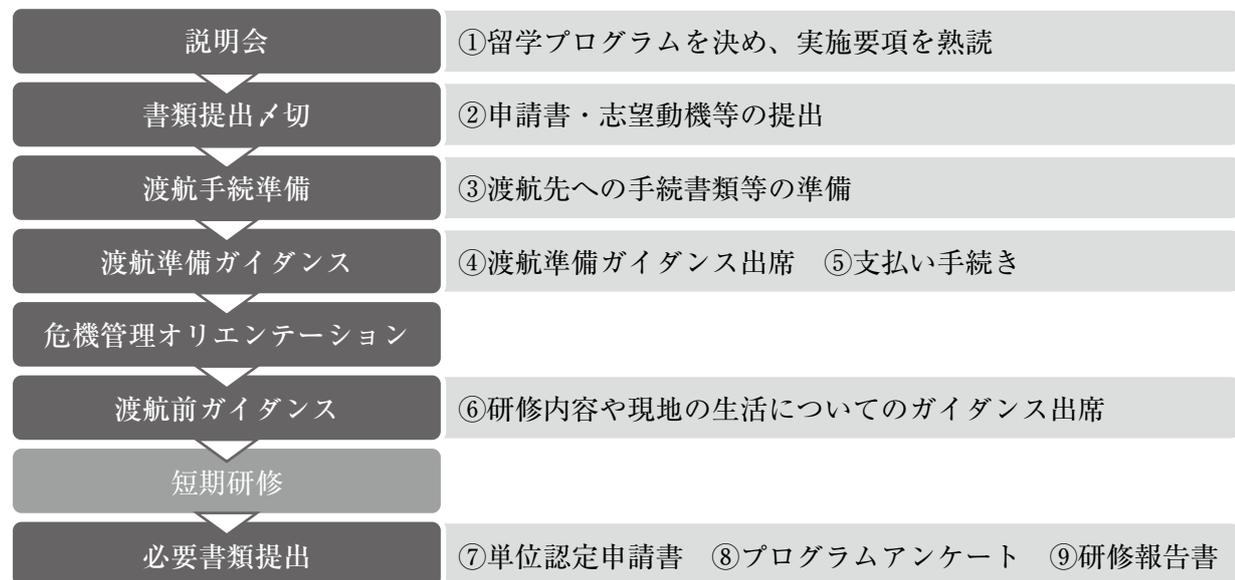
短期研修

短期研修は夏季休業期間や春季休業期間を利用して実施される1ヶ月前後の研修です。

■短期研修実施校

留学先	対象	問い合わせ先	実施期間（約）	時期
カリフォルニア州立大学チコ校ALCI（アメリカ）	全学	国際センター （国際交流支援 グループ）	4週間	2月～3月
ニューヨーク大学SPS ALI（アメリカ）			3週間	2月～3月
ポートランド州立大学IELP（アメリカ）			3週間	8月～9月
ブリティッシュ・コロンビア大学ELI（カナダ）			4週間	8月～9月
ディーキン大学ELI（オーストラリア）			3週間	8月～9月
モナシュ大学ELC（オーストラリア）			5週間	2月～3月
北京師範大学漢語文化学院（中国）			2週間又は 3週間	7月～8月 2月～3月
国立台湾師範大学国語教学センター（台湾）			3週間	2月～3月
梨花女子大学校言語教育院（韓国）			3週間	3月
オックスフォード大学ハートフォードカレッジ IPD（イギリス）			3週間	8月～9月
スターリング大学IELS（イギリス）			6週間	2月～3月
フライブルク大学SLI（ドイツ）			4週間	8月
レンヌ 第2大学 CIREFE（フランス）			4週間	8月～9月
ロンドン大学英語音声学セミナー（イギリス）			文学部英語英文学科／英文学科	実施せず
サン・ホルヘ大学（スペイン）	比較文化学部	2週間又は 3週間	8月～9月	
ヨーロッパ文化研修（ギリシャ）		実施せず（隔年実施）		

■短期研修ロードマップ



■短期研修参加者数

2018年度

大学		家	文	社	人	比	短	小計
国際センター	カリフォルニア州立大学チコ校ALCI	0	1	0	0	2	0	3
	ブリティッシュ・コロンビア大学ELI	1	3	1	2	5	0	12
	ディーキン大学ELI	1	3	0	0	0	0	4
	モナシュ大学ELC	0	2	0	0	0	1	3
	国立台湾師範大学国語教学センター	0	1	0	0	4	0	5
	梨花女子大学校言語教育院	3	2	1	0	5	0	11
	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	0	3	3	2	5	2	15
	スターリング大学ELP	0	2	0	0	0	0	2
	フライブルク大学SLI	0	0	0	0	1	0	1
	レンヌ第2大学CIREE	1	0	0	0	1	0	2
文学部英文学科	ロンドン大学英語音声学セミナー	-	4	-	-	-	-	4
比較文化学部	サン・ホルヘ大学	-	-	-	-	8	-	8

2017年度

大学		家	文	社	人	比	短	小計
国際センター	カリフォルニア州立大学チコ校ALCI	0	1	3	0	3	1	8
	ブリティッシュ・コロンビア大学ELI	2	4	1	1	1	0	9
	モナシュ大学ELC	3	3	1	3	3	1	14
	国立台湾師範大学国語教学センター	0	0	1	0	4	0	5
	梨花女子大学校言語教育院	1	2	0	1	0	0	4
	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	2	1	1	0	4	2	10
	フライブルク大学SLI	0	0	0	0	3	0	3
文学部英文学科	ロンドン大学英語音声学セミナー	-	3	-	-	-	-	3

2016年度

大学		家	文	社	人	比	短	小計
国際センター	セント・ジョセフ大学	4	3	1	0	2	1	11
	カリフォルニア州立大学チコ校ALCI	2	6	2	1	0	0	11
	ブリティッシュ・コロンビア大学ELI	1	9	1	1	1	3	16
	ディーキン大学ELI	1	4	2	1	1	2	11
	モナシュ大学ELC	2	6	5	0	4	0	17
	国立台湾師範大学国語教学センター	1	4	0	0	6	0	11
	梨花女子大学校言語教育院	0	4	1	1	0	5	11
	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	1	2	1	0	10	2	16
	フライブルク大学SLI	0	0	0	0	5	0	5
文学部英文科	ロンドン大学英語音声学セミナー	-	3	-	-	-	-	3

長期留学・交換留学

■長期留学実施校

海外の大学との協定をもとに、学生が1学期間または1年間で協定校で学ぶプログラムです。

留学先	対象	問い合わせ先	実施期間(約)	時期	該当する本学の学期	
マレー州立大学IIS (アメリカ)	全学	国際センター (国際交流支援グループ)	5ヶ月間	8月～12月	後期	
			10ヶ月間	8月～5月	出発年度後期、次年度前期	
カリフォルニア州立大学チコ校ALCI (アメリカ)			5ヶ月間	3月～7月	前期	
			9ヶ月間	3月～12月	前期・後期	
カリフォルニア大学リバーサイド校 Extension(アメリカ)			5ヶ月間	3月～9月	前期	
			9ヶ月間	3月～12月	前期・後期	
ダグラスカレッジELLA (カナダ)			1年間	8月～8月	出発年度後期、次年度前期	
ディーキン大学ELI (オーストラリア)			11ヶ月間	2月～12月	前期・後期	
北京師範大学漢語文化学院 (中国)			6ヶ月間	2月～7月	前期	
			1年間	2月～1月	前期・後期	
大連外国語大学漢学院 (中国)			6ヶ月間	2月～7月	前期	
			1年間	2月～1月	前期・後期	
国立台湾大学文学院語文中心 (台湾)			7ヶ月間	2月～8月	後期	
			1年間	2月～2月	前期・後期	
オックスフォード大学 ハートフォードカレッジIPD (イギリス)	短期大学部	短期大学部 英文科	6ヶ月間	10月～3月	後期	
			モナシュ大学ELC(オーストラリア)※1	8ヶ月間	8月～3月	後期
			南開大学漢語文化学院 (中国)	5ヶ月間	9月～1月	後期
			ミュンスター大学WiPDaF (ドイツ)	5ヶ月間	8月～12月	後期
			国立台湾師範大学国語教学センター (台湾)	6ヶ月間	9月～2月	後期
オックスフォード大学 ハートフォードカレッジIPD (イギリス)			6ヶ月間	10月～3月	後期	

※1 2020年度派遣より対象を全学部とする予定です。

■交換留学実施校

協定をもとに、1学期間または1年間、大妻女子大学と協定校との間で双方の学生を派遣・受け入れるプログラムです。

留学先	対象	問い合わせ先	実施期間(約)	時期	該当する本学の学期
国民大学校 (韓国)	全学	国際センター (国際交流支援 グループ)	4ヶ月間	3月～6月	前期
				9月～12月	後期
			10ヶ月間	3月～12月	前期・後期
明知大学校 (韓国)			4ヶ月間	3月～6月	前期
				9月～12月	後期
			10ヶ月間	3月～12月	前期・後期

■長期留学・交換留学参加者数

2018年度

大学		家	文	社	人	比	短	小計
国際センター	マレー州立大学（5ヶ月間）	0	1	0	0	0	0	1
	カリフォルニア大学リバーサイド校（5ヶ月間）	0	1	0	0	1	0	2
	ディーキン大学	0	2	0	0	0	0	2
	国民大学校（交換）（4ヶ月間）	0	2	0	0	0	0	2
	国民大学校（交換）（10ヶ月間）	0	1	0	0	0	0	1
	明知大学校（交換）（4ヶ月間）	0	0	1	0	1	0	2
	国立台湾大学（7ヶ月間）	0	3	0	0	0	0	3
比較文化学部	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	-	-	-	-	1	-	1
	ミュンスター大学	-	-	-	-	2	-	2
	モナシュ大学	-	-	-	-	2	-	2
	国立台湾師範大学	-	-	-	-	2	-	2
短期大学部英文科	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	-	-	-	-	-	1	1

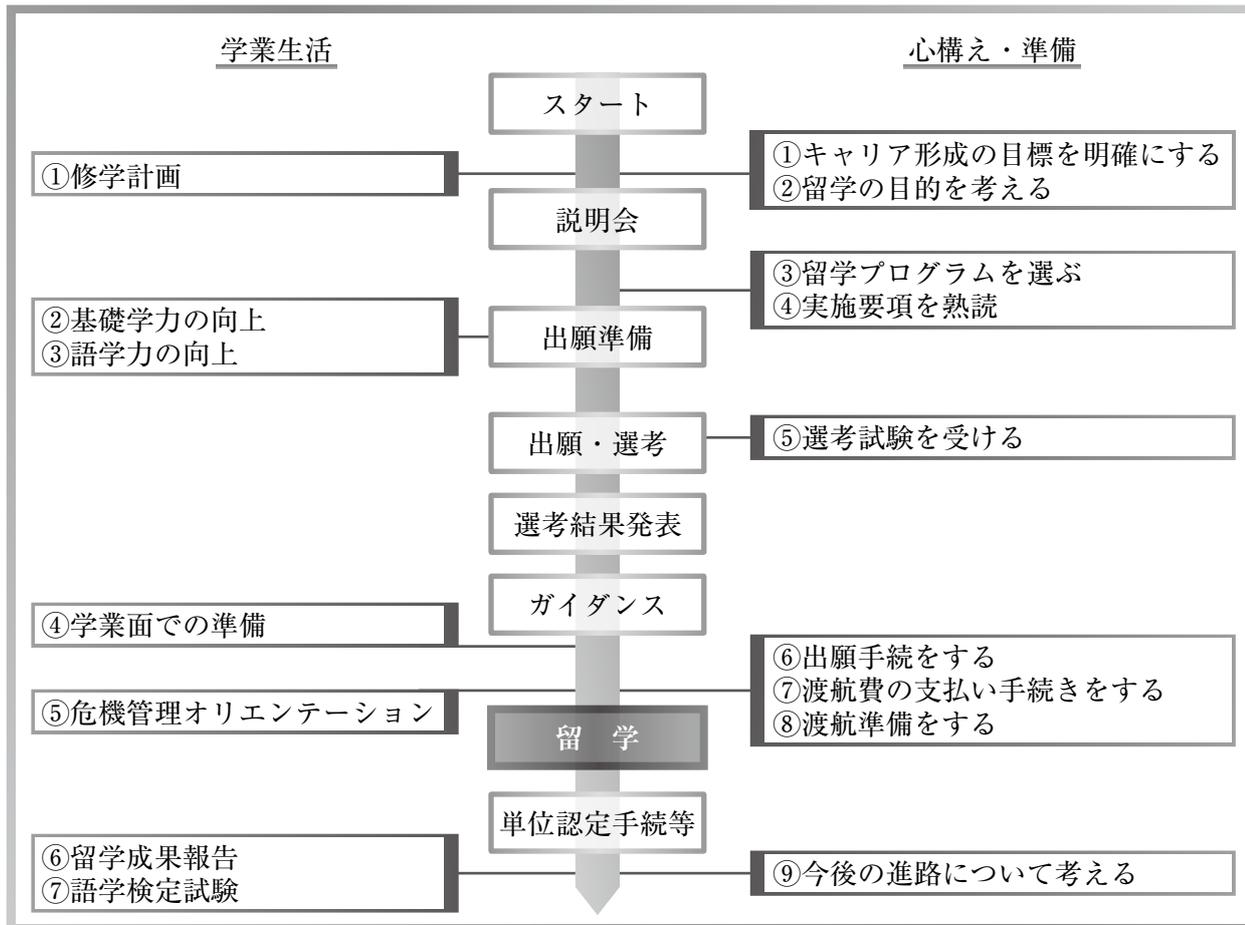
2017年度

大学		家	文	社	人	比	短	小計
国際センター	マレー州立大学（5ヶ月間）	0	3	0	0	0	0	3
	マレー州立大学（10ヶ月間）	1	4	2	0	0	0	7
	カリフォルニア大学リバーサイド校（5ヶ月間）	0	3	0	0	0	0	3
	カリフォルニア大学リバーサイド校（9ヶ月間）	0	2	0	0	0	0	2
	ディーキン大学	0	3	0	0	0	0	3
	明知大学校（交換）（4ヶ月間）	0	0	0	0	1	0	1
	セント・ジョセフ大学	0	1	0	0	0	0	1
比較文化学部	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	-	-	-	-	1	-	1
	モナシュ大学	-	-	-	-	8	-	8
	国立台湾師範大学	-	-	-	-	2	-	2
短期大学部英文科	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	-	-	-	-	-	1	1

2016年度

大学		家	文	社	人	比	短	小計
国際センター	マレー州立大学（5ヶ月間）	0	2	1	0	0	0	3
	マレー州立大学（10ヶ月間）	0	0	3	0	1	0	4
	カリフォルニア大学リバーサイド校（9ヶ月間）	0	7	0	0	0	0	7
	カリフォルニア州立大学チコ校（9ヶ月間）	0	4	0	0	1	0	5
	ダグラスカレッジ	0	2	0	0	0	0	2
	ディーキン大学	0	0	0	0	1	0	1
	北京師範大学（1年間）	0	1	0	0	0	0	1
	国民大学校（交換）（10ヶ月間）	1	1	0	0	0	0	2
比較文化学部	モナシュ大学	-	-	-	-	7	-	7
	国立台湾師範大学	-	-	-	-	2	-	2
短期大学部英文科	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	-	-	-	-	-	4	4

■長期留学・交換留学ロードマップ



海外ボランティア

「海外ボランティア」とは、世界各地で開催されるボランティア活動に主体的に参加するプログラムです。

■プログラムの主な内容

- ◇ チャイルドケア：園児のケアや交流を通じて幼児教育の現場を体験
- ◇ 環境保護：環境保護団体が行う植林や生態系整備、ワークショップのサポート
- ◇ アニマルケア(動物NPO支援)：動物保護施設やファームで檻の清掃やエサやりなどのアシスタント
- ◇ 地域サポート：低所得者支援施設やリサイクルショップなどでのアシスタント
- ◇ 教師アシスタント：現地の小学校で英語での授業サポートと教師体験

■海外ボランティアと大妻女子大学

「海外ボランティア」とは、非営利教育団体CIEEが提供するプログラムです。CIEEとは、TOEFL® テストの窓口「国際教育交換協議会日本代表部」の略称です。

このプログラムは、1995年に始まり、年間、約1000名の参加者があります。参加者のほとんどは、日本各地の大学に在籍する大学生です。

大妻女子大学では、CIEEの職員が、学内で「海外ボランティア」の説明会を行います。18歳以上であれば、特別の参加要件はありません。(一部英語力を求めるプログラムもあります。)参加希望者は、web登録をします。世界中の学生が一斉に登録をするので、希望が叶わない場合もあります。

「海外ボランティア」には、チャイルドケア・環境保護・アニマルケア・地域サポート・教師アシスタントなど、様々な種類があります。大妻女子大学では、ホームステイのあるプログラムを推奨しています。しかし、オセアニア「環境保護」のように、ホームステイのともなわないプログラムに参加した学生もいます。

■CIEE海外ボランティア参加者数

2018年度

国・地域	プログラム	時期	家	文	社	人	比	短	小計
アメリカ	教師アシスタント	春	1	0	0	0	0	0	1
カナダ	地域サポート	夏	1	0	0	0	0	0	1
カナダ	アニマルケア (動物NPO支援)	夏	0	0	1	0	0	0	1
		春	0	0	0	0	1	0	1
オーストラリア	チャイルドケア	夏	0	0	0	2	0	0	2
		春	0	2	0	0	1	0	3
ニュージーランド	チャイルドケア	夏	1	0	0	0	0	0	1
		春	1	0	0	0	0	0	1

2017年度

国・地域	プログラム	時期	家	文	社	人	比	短	小計
オーストラリア	チャイルドケア	夏	1	0	0	0	1	0	2
		春	1	1	1	1	1	0	5
ニュージーランド	チャイルドケア	夏	0	1	1	0	1	0	3
		春	0	1	2	0	0	0	3
アメリカ	教師アシスタント	夏	0	1	0	0	0	0	1
		春	1	0	0	0	0	0	1

2016年度

国・地域	プログラム	時期	家	文	社	人	比	短	小計
カナダ	環境保護	夏	0	1	0	0	0	0	1
		春	0	0	1	0	0	0	1
カナダ	アニマルケア	夏	0	1	0	0	0	0	1
オーストラリア	環境保護	夏	0	2	0	0	0	0	2
オーストラリア	チャイルドケア	春	0	0	0	2	0	0	2
ニュージーランド	チャイルドケア	夏	0	1	0	0	0	0	1

■年間スケジュール



ACEJ短期語学研修

■ACEJ厳選！短期語学研修プログラムの特徴とは

ACEJでは、現地の語学学校や滞在先周辺的环境、プログラム内容、学校スタッフによるサポート体制などの最新情報をリサーチし、プログラムの総合評価を行っております。さらに、帰国後の参加者によるアンケート結果を参考に、厳選した語学学校への研修プログラムを企画しております。

■ACEJ大学キャンパス語学研修プログラムの特徴とは

姉妹団体JSAFと協定を結ぶ世界トップレベルの大学キャンパスで2～5週間学ぶプログラムです。参加者は原則として留学先大学より語学研修生として受け入れられ、大学キャンパスまたは大学付属施設内で授業を受けることができます。さらに、大学施設の利用が可能であるため、より海外大学の雰囲気を感じられるなど、一般の語学留学にはない多くのメリットがあり、一部、大妻女子大学の単位認定対象プログラムとなっています。

■大学キャンパス語学研修大学一覧（2018年度）

所定の期間に実施される一部のプログラムは単位が認定されます。

夏期

- ✧ アメリカ：ワシントン大学、シアトルパシフィック大学
- ✧ カナダ：トロント大学
- ✧ ニュージーランド：オークランド大学
- ✧ アイルランド：グリフィスカレッジ
- ✧ イギリス：ロンドン芸術大学

春期

- ✧ アメリカ：ワシントン大学、シアトルパシフィック大学、カリフォルニア大学サンディエゴ、ハワイ大学マノア
- ✧ カナダ：ブリティッシュ・コロンビア大学、トロント大学
- ✧ オーストラリア：ニューサウスウェールズ大学、西オーストラリア大学、クイーンズランド大学
- ✧ ニュージーランド：オークランド大学
- ✧ アイルランド：グリフィスカレッジ
- ✧ イギリス：ロンドン芸術大学

■ACEJが出発前から帰国までサポート

- ①無料個別カウンセリングで学校選定（学内またはACEJ高田馬場オフィスで実施）
- ②お申込後は、AIU海外留学保険（代理店業務）のご案内や、提携旅行会社を通じた格安航空券の手配など、渡航に関するすべての準備をサポート
- ③持ち物や当日の流れなどについて、一人ひとりに最終確認電話を実施
- ④緊急時には日本語で問い合わせができる24時間安心サポート付き
- ⑤現地ホームステイコーディネーターが、あらかじめ面接や家庭訪問に合格したホストファミリーの中から、参加者の健康面や性格・趣味などの情報を参考にして滞在先を選定
- ⑥現地空港と滞在先間の送迎（往復）付き ※一部、帰りの見送りが無いプログラムもあります。

■JSAFおよびACEJ組織概要

大妻女子大学では、JSAF(ジェイサフ／一般財団法人日本スタディ・アブロード・ファンデーション)とパートナーシップを締結しています。これにより、海外有名大学への1学期～1学年間の学部留学、その他各種留学プログラムのJSAF／ACEJ国際教育アドバイザーによる説明会や個別相談会を実施しています。また、JSAFの姉妹団体ACEJ(エーシーイージェイ)は、JSAFのGlobal Language Educationの業務として、日本の大学生を中心に、英語圏（アメリカ、カナダ、イギリス、アイルランド、オーストラリア

ア、ニュージーランド) 語学留学の無料手続きサポートを行っています。

■ACEJ短期語学研修参加者数

2018年度

プログラム名		所属別参加者数						合計
		家	文	社	人	比	短	
ワシントン大学 (アメリカ)	夏期	0	3	0	1	0	0	4
	春期	0	1	0	0	3	0	4
シアトルパシフィック大学 (アメリカ)	夏期	0	2	0	0	0	0	2
カリフォルニア大学サンディエゴ (アメリカ)	春期	0	9	0	0	0	0	9
ハワイ大学マノア (アメリカ)	春期	0	1	0	0	0	0	1
ブリティッシュ・コロンビア大学 (カナダ)	春期	0	1	0	0	0	0	1
トロント大学 (カナダ)	夏期	0	1	0	0	1	0	2
	春期	0	6	0	0	0	0	6
ニューサウスウェールズ大学 (オーストラリア)	春期	0	0	1	0	0	0	1
西オーストラリア大学 (オーストラリア)	春期	1	0	0	0	0	0	1
クイーンズランド大学 (オーストラリア)	春期	0	0	0	0	1	0	1
オークランド大学 (ニュージーランド)	夏期	0	0	1	0	2	0	3
グリフィスカレッジ (アイルランド)	夏期	0	1	0	0	2	0	3
	春期	0	1	1	1	1	0	4
ロンドン芸術大学 (イギリス)	春期	0	0	0	0	1	0	1
合計	夏期	0	7	1	1	5	0	14
	春期	1	19	2	1	6	0	29

2017年度

プログラム名		所属別参加者数						合計
		家	文	社	人	比	短	
ワシントン大学 (アメリカ)	夏期	0	0	0	0	1	0	1
シアトルパシフィック大学 (アメリカ)	夏期	0	1	0	0	1	0	2
カリフォルニア大学サンディエゴ (アメリカ)	春期	0	2	0	0	0	0	2
ブリティッシュ・コロンビア大学 (カナダ)	春期	1	0	0	0	0	0	1
トロント大学 (カナダ)	春期	0	4	1	0	1	0	6
ニューサウスウェールズ大学 (オーストラリア)	春期	0	0	0	0	1	0	1
オークランド大学 (ニュージーランド)	夏期	1	2	0	0	2	1	6
グリフィスカレッジ (アイルランド)	夏期	0	1	0	0	0	0	1
	春期	0	0	1	0	0	0	1
合計	夏期	1	4	0	0	4	1	10
	春期	1	6	2	0	2	0	11

ウエスタン・シドニー大学英語+キャビクルートトレーニングプログラム研修

留 学 先	対 象	問い合わせ先	実施期間	時 期
エステーエトラベル主催 ウエスタン・シドニー大学英語+キャビ クルートトレーニングプログラム研修	全学	エステーエトラベル・国際セン ター（国際交流支援グループ）	3 週間	2 月～3 月

■プログラムの特徴

- ①英語レベルが気になる方でも安心
トレーニング開始前、2週間のウエスタン・シドニー大学内ランゲージセンターで語学研修。
加えてインターナショナルクラスなので、他の国々の学生とのコミュニケーションを取る事が可能。
語学研修中、トレーニングに必要な英語研修も行われます。
- ②語学研修中、シドニー観光も含まれる
- ③滞在は、ホームステイ
現地の生活習慣なども体験でき、ホストファミリーとの交流も出来ます。
- ④カンタス航空で実際に使用されている施設「QANTAS CENTRE OF EXCELLENCE」での研修
- ⑤伝統ある外資系航空会社カンタス航空のホスピタリティを学ぶことができる
- ⑥全クラスのミールサービスを体験
- ⑦2つのCertificates(語学研修とカンタス航空の修了証) 取得
- ⑧一貫して英語でのレッスン

■研修先について

ウエスタン・シドニー大学

シドニーに6つのキャンパスを持つ大規模な大学で約30,000名の学生が在籍しています。留学生も多く、世界約70カ国から3,000名を超える留学生が通っています。

特に人気のあるコースには通訳・翻訳関係があり、国家通訳・翻訳者認定資格が取得できます。近代的な図書館、コンピューターラボ、各種スポーツ施設等、大学の施設も優れています。

カンタス航空 (Qantas Airways)

カンタス航空は、南半球最大手の航空会社で、世界で3番目に古い伝統ある航空会社です。

航空会社の各種サービスをランキングする機関 (Airline Ratings) が発表する、2017年度最も安全な航空会社のトップに選ばれ、同航空会社は、トップに4年連続輝いています。

国際センター受け入れ留学生について

大妻女子大学では、正規に入学する留学生の他に、大学間交流協定に基づき、所属する大学に在籍しつつ概ね半年から1年間滞在する招致留学生を受け入れ、日本語や日本文化を学修するための「日本語・日本事情」などの講座を国際センターが開設しています。

また、国際センターでは大妻女子大学で学ぶすべての留学生と本学学生との交流推進のために留学生交流会などのイベントを実施しています。

■国際センター所属留学生受け入れ数

2018年度

大学	受入数
国民大学校（韓国）	1
明知大学校（韓国）	2
合計	3

2017年度

大学	受入数
明知大学校（韓国）	3
雲南大学（中国）	1
合計	4

2016年度

大学	受入数
国民大学校（韓国）	2
カトリック関東大学校（韓国）	1
明知大学校（韓国）	1
雲南大学（中国）	6
セント・ジョセフ大学（アメリカ）	1
合計	11

■外国人留学生受け入れ数

2018年度

国・地域	正規留学生				合計
	大学	短期大学部	大学院 (修士課程)	大学院 (博士課程)	
中国	3	1	2	1	7
台湾			1		1
韓国	2				2
ベトナム	1				1
合計	6	1	3	1	11

2017年度

国・地域	正規留学生			科目等履修生・ 聴講生	合計
	大学	大学院 (修士課程)	大学院 (博士課程)	大学	
中国	2	2	1	1	6
台湾		1			1
韓国	1				1
合計	3	3	1	1	8

2016年度

国・地域	正規留学生			科目等履修生・ 聴講生	合計
	大学	大学院 (修士課程)	大学院 (博士課程)	大学院	
中国	1	4	1	1	7
韓国	1				1
ベトナム		1			1
合計	2	5	1	1	9

安全と危機管理

1. 留学前の準備

①留学国・地域の選択と情報収集

留学国・地域の治安情勢、犯罪傾向、衛生状況、医療情報、風俗、習慣、現地の法令・法律などの情報収集は大変重要です。以下のサイト等で最新の情報収集を行ってください。



外務省海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

電話：外務省領事サービスセンター（海外安全担当） 03-5501-8162

利用時間 9：00-17：00（外務省閉庁日を除く）



外務省：「海外安全ホームページ」海外安全虎の巻

https://www.anzen.mofa.go.jp/pamph/pdf/tora_2018.pdf



世界の医療事情

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/index.html>



厚生労働省の「海外で健康に過ごすために」

<https://www.forth.go.jp/>

②海外旅行保険と危機管理プログラム

海外旅行保険への加入は海外で自身の身を守るため必ず行ってください。なおクレジットカード付帯の保険は保証内容に制限があることや、全ての手続きを代理店ではなく自分で行わなければならないなど、お薦めできません。

危機管理プログラムは危機管理会社が、学生・保護者・派遣元および派遣先大学・保険会社を繋いで危機に備えるプログラムです。

●学研災付帯海外留学保険

学研災は、全国1,096大学、約280万人の学生が加入する標準的な傷害保険です。海外に留学する場合、学研災に付帯し疾病や救援者費用と留學生賠償責任を充実させています（「学研災付帯海学」は、学研災付帯海外留学保険の略称です。）本学学生であれば個人の留学であっても学研災付帯海外留学保険に加入することができます。詳細は国際センター（国際交流支援グループ）まで問合せください。

●安心サポートデスク

国際センターが主催するプログラムに参加する場合には、必ずアイラック安心サポートデスクに加入することになっています。留学中に緊急事態や深刻なトラブルに巻き込まれた場合に、24時間365日利用できる緊急支援窓口を提供します。

2. 派遣前・派遣中のプログラム中止や帰国勧告について

外務省では、上記「海外安全ホームページ<http://www.pubanzen.mofa.go.jp/>」で、各国・地域の最新の治安情勢を以下のように4段階に大別しております。本学では、出発時や留学中に以下の勧告が出ている地域への留学は、渡航を延期、もしくは留学の中止および帰国勧告を検討する場合があります。

●『レベル1：十分注意してください』

その国・地域への渡航、滞在に当たって危険を避けていただくため特別な注意が必要です。

●『レベル2：不要不急の渡航は止めてください』

その国・地位への不要不急の渡航は止めてください。渡航する場合には特別な注意を払うとともに、十分な安全対策をとってください。

●『レベル3：渡航は止めてください（渡航中止勧告）』

その国・地域への渡航は、どのような目的であれ止めてください。（場合によっては、現地に滞在

している日本人の方々に対して退避の可能性や準備を促すメッセージを含むことがあります。)

●『レベル4：退避してください。渡航は止めてください（退避勧告）』

その国・地域へ滞在している方は滞在地から、安全な国・地域へ退避してください。

3. 留学中の備え

留学中の所在を常に明らかにするため、日本大使館または総領事館に必ず「在留届」の提出や外務省への「たびレジ」登録を行って下さい。自然災害や事件・事故、テロなど万が一の事態が起きた場合に大使館・領事館から救援活動や緊急連絡、情報提供を受けることができます。

①在留届

旅券法第16条により、外国に住所又は居所を定めて3か月以上滞在する日本人は、その住所又は居所を管轄する日本の大使館又は総領事館（在外公館）に「在留届」を提出するよう義務付けられています。

 在留届電子届出システム

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/>

②「たびレジ」

3ヶ月未満の滞在の場合は「たびレジ」に登録します。滞在先の最新の渡航情報や緊急事態発生時の連絡メール、緊急連絡などが受け取れるシステムです。

 「たびレジ」

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

◎海外での予期しないトラブルに巻き込まれた時に解決するのは自分自身です。上記の対策をした上で、自らの責任で対処できる主体性のある学生であることが求められます。

留学お役立ち情報

留学に関連する情報をまとめています。

 日本学生支援機構ウェブサイト「海外留学支援サイト」

公的機関である日本学生支援機構（JASSO）が運営する海外留学を考える方への情報サイトです。
(<http://ryugaku.jasso.go.jp/>)

 日本学生支援機構「海外留学のための奨学金」

日本学生支援機構、外国政府、地方自治体、民間団体などによる海外留学奨学金情報を掲載しています。
(<http://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>)

 「海外留学奨学金パンフレット」

海外留学希望者を対象とした奨学金のリストを掲載しています。
(<http://ryugaku.jasso.go.jp/publication/pamphlet/>)

 「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」

「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」は、2014年からスタートした官民協働で取り組む海外留学支援制度です。

2020年までの7年間で約1万人の高校生、大学生を「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」の派遣留学生として送り出す計画です。派遣留学生は支援企業と共にグローバル人材コミュニティを形成し“産業界を中心に社会で求められる人材”、“世界で、又は世界を視野に入れて活躍できる人材”へと育成されます。
(<http://www.tobitate.mext.go.jp/>)

TOEFL® (Test of English as a Foreign Language)

英語圏の大学等高等教育機関、一部高校への留学希望者を対象とした英語能力試験。



〈実施機関〉ETS (Educational Testing Service)
(<http://www.ets.org/toefl>)



〈国内問合せ先〉国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部 (<http://www.cieej.or.jp/>)



TOEFL iBT®
プロメトリック (株) (<http://ac.prometric-jp.com/toefl/jp/online.html>)

IELTS™ (International English Language Testing System)

英語圏 (主に英国、アイルランド、オーストラリア、ニュージーランド) の大学等高等教育機関への留学希望者の英語力を評価する試験。



〈実施機関〉IELTS (<https://www.ielts.org/>)



〈国内問合せ先〉(公財) 日本英語検定協会 (<http://www.eiken.or.jp/ielts/>)



(一財) 日本スタディ・アブロード・ファンデーション (<http://www.jsaf-ieltsjapan.com/>)



日米教育委員会 (フルブライト・ジャパン)

日米教育委員会は日米両政府からの拠出金により運営され、日米の人物交流による相互理解の促進を目的に、フルブライト奨学金事業、アメリカ留学に関する相談サービス事業を行っています。
(<http://www.fulbright.jp/>)



ブリティッシュ・カウンシル

ブリティッシュ・カウンシルは英国 (イギリス) の公的な国際文化交流機関であり、各国における英語の普及やイギリスと諸外国の間の教育・文化交流を目的としています。
(<https://www.britishcouncil.jp/>)



HSK (漢語水平考試)

中国政府が認定する資格です。(<http://www.hskj.jp/>)



韓国語能力試験 (TOPIK)

韓国語能力試験は、大韓民国政府 (教育省) が認定・実施する唯一の韓国語 (ハングル) 試験です。
(<http://www.kref.or.jp/examination>)

特別講座／異文化交流イベント

国際センターでは、留学そのものがより意義深いものとなるよう、事前・事後の研修としてさまざまな特別講座を開設、学生自身の語学力の把握、留学への目的意識の明確化、異文化への対応力養成、留学経験を活かしたキャリア形成などについて学ぶ機会を提供しています。

なお、特別講座は、広く学生一般に開放し、学内の国際化の意識・意欲の喚起も目的としています。

- ◇ **ニューヨーク大学プロフェッショナル教育東京 短期英語集中（国内留学体験）プログラム**
日本にいながら、アメリカの大学での教育資格をもつ先生の授業を体験します。
※費用負担が生じます。
- ◇ **日本で働く外国の方に聞いてみよう**
日本で働く外国の方に出身国のこと、日本や出身国以外で働くことの意義や感想をお聞きします。できる限り業種を分けますので、ご自身のキャリアのヒントもあるかもしれません。
希望者には、軽食を囲んでの懇親会にも出ていただきます。
- ◇ **大使館のひとに聞いてみよう**
日本にある外国の大使館などで働く外国の方に出身国のこと、その国のおもしろい文化やトピックスなどをお聞きします。行ってみたい国が見つかるかもしれません。懇親会も開催する予定です。
- ◇ **学内留学体験講座（英語）**
留学を予定している学生の事前準備のため、また、留学に参加できない学生には、学内で留学の擬似的な体験をするための講座です。
- ◇ **異文化理解講座**
留学に必要な異文化に対する寛容さを学び、また、国内での異文化交流を体験したい学生のための講座です。
- ◇ **危機管理オリエンテーション**
海外での安全に関する一般的な心構えとともに、各研修先の国・地域に特化した危険情報・事例(事件事故、感染症、テロ等)の紹介およびその対処法を学びます。
- ◇ **女性向け危機管理オリエンテーション**
女性が特に気をつけるべき事柄、危険情報、事例の紹介およびその対処法を学びます。
- ◇ **トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム支援**
官民協働で取り組む海外留学支援制度への申請を支援しています。
- ◇ **IELTSTM、TOEFL®支援**
留学にともなう語学試験対策の説明会を行っています。

※2019年度実施予定の概要ですが、状況によっては実施しない場合があります。

教員紹介

国際センター専任教員

趙 方任 先生 (中国語圏担当、日本事情科目担当)

今まで、儒家思想、東アジア文化論、中国古典文化、中国語などの科目を教えてきたとともに、国際交流活動にも数多く携えてきました。国際センターで皆さんが異文化体験をよりスムーズにできるようにベストを尽くしたいと思います。

伊藤 みちる 先生 (英語圏担当、日本語科目担当)

英語の勉強法、留学先選び、留学準備、留学後の語学力を保つ方法、留学経験を活かした就職、海外ボランティア、海外旅行先選びなど、何の相談でもお気軽にお越しください。オフィスアワーに来られない方、誰にも邪魔されずにお話したい方は、下記の連絡先までご連絡の上、お越しください。

森 功次 先生 (フランス語圏担当、日本事情科目担当)

他国の文化を理解するには、自国の文化とどこが似ていてどこが違っているかを考えることが大事です。言葉の感覚を洗練させることは、そのための大事なステップになります。哲学・美学の視点から、学生の方々の異文化理解をお手伝いできればと思います。

海外研修・留学プログラム 参加者の声 (一部抜粋)

研修・留学名：カリフォルニア州立大学チコ校 短期語学研修 (アメリカ)

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・勉強をたくさんしたこと。毎日の授業についていくのも大変だったし、何より日本人にとっては難しいエッセイや要約の課題などがたくさん出たので暇な時間も勉強にあてていた。日本では課題はあまり出ないのでアメリカでの課題の多さに驚いたし、大変でもあったが、勉強に集中する習慣が付き有意義な時間を過ごすことができた。
- ・他国の人と英語を通してコミュニケーションをとれたことである。そして、母国語ではない英語を通して、他国の文化を少し学べたことである。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・大学では、主に4つの授業を受けました。Speaking, Writing, Listening, Readingの4つです。他にもチコ校の日本人の先生が受け持つ授業に参加させていただき、アメリカ人の友達もできました。また、アメリカの大学で日本のことについて学んでいる風景もすごく新鮮でした。日本に興味がある生徒との授業以外での交流が多かったように思えます。留学生の英語の学習を助けてくれるクラブのようなところもありとても勉強するには良い環境でした。外国の友達と英語でたくさん話したかったが宿題が多かったのですぐ家に帰る日もありました。
- ・speakingの授業では、討論形式の授業が主体で、自分の意見を人に伝えることができるかが重要でした。(消費者にいかにお品を買ってもらうか・自分の国での銃の規制について・詩の解釈など)reading は大学の講義の資料映像を見てその場で要約をして、小テストを受けるなどの授業形式でした。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・自分の事に責任を持つ意識と英語力だと思います。日本にいと、親や先輩が助けてくれる場面が多いですが、アメリカでは頼る人はいなかったので自力で頑張ることが多かったと思います。バスに乗ることや、店での買い物や注文など、わからないことは英語で質問すればいいと聞き直り、たくさんの方に挑戦できました。
- ・一番は当たり前ですが、英語での会話が上達したことと、自分の英語に自信を持てたことです。他国の人の話を聞いたのもいい経験になりました。同じアジアの国でも雰囲気は全く違うところ似ているとこ

ろなど考え方の違いなどを感じました。また、中東から来た学生の母国の話もとても興味深かったです。

- ・英語を話せるようになりたいと初めて強く思った。英語でコミュニケーションをとることができれば、多くの国の英語を話せる人と会話を楽しむことができる。そこに魅力を感じた。研修に参加するまでは、英語はあくまでテストのためでしかなかった。短期間の英語研修ではあったが、英語に対する姿勢は大きく変わったと思う。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- ・アメリカで見たものは自分の世界を確実に広くし、いろんな経験をしたことで自分に自信をもてるようになった。例えば人前で何かを発表するとき、初対面の人と仲良くなる時、新たなことに挑戦するとき、他人に甘えてしまいそうになるとき、留学での経験を思い出すと自分に負けたくないと思ったようになった。アメリカで過ごした3週間は誇りを持って素晴らしいものだったと言えるので、そうした経験を無駄にならないよう日々思い出し、成長できるようにしていきたい。
- ・授業を受けたことで得た、文章構成力や英語を話す力は大学での勉強や就活に生かしていきたいです。向こうで得た経験は自分の人間性を高める力になると思います。
- ・英語は日本ではあまり使う機会がないのですが、授業や旅行などを通して更に発展させたいです。また、異なる意見を聞き、それを吸収するのが好きだということに気づくことができたので、いろいろな人と関わるような仕事に就きたいと思いました。意見を聞く一つのツールとして英語をこれからも使っていきたいです。
- ・英語でコミュニケーションをとれるようになるということを目標に英語を勉強したいと思う。そして、日本に興味がある人に生け花を伝えていきたい。(生け花のお稽古を英語でできたらよいと思った。)

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・絶対に留学は人生で一度は行くべきだし、私ももう一度いつか行きたいなという風に考えています。
- ・なんでも自分から行動していかないと充実した一か月は過ごすことができません。少しでも疑問に思ったり、感じたことがあれば声に出さなければ何も生みだしません。そうでないと現地の人とのコミュニケーションは成り立ちません。相手から聞いてくれることを待っていては何事もマイナスに働きます。
- ・少しでも留学に興味があれば一か月だけでも行くべき。色々なことが学べる。私は友達が誰もいない中行ったが、大妻生の友達もたくさんできた。心配することはない。
- ・ホストファミリーや、一緒に行く人、現地の学生、他国から来た人などいろいろな人の話を聞いて、分からないことはその場で聞くこと。

研修・留学名：ブリティッシュ・コロンビア大学 短期語学研修（カナダ）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・ホームステイ先での貴重な体験、特にホストファミリーとの日々のコミュニケーションや外出先での交流。
- ・英語が伝わった時の喜びや、現地で友達ができただけです。
- ・現地の人だけでなく、同じ目標を持った多くの日本人学生に出会えたこと、日本とは異なる文化を実際に体験できたことが、有意義だった事柄です。異国の地で自分の力で生活してみることから、英語だけでなく、多くのことを学ぶことが出来ました。
- ・毎日英語を使うことが、何よりも価値のある経験でした。最初はなかなか耳が慣れず、聞き取れないことが多かったのですが、時間が経つにつれて、だんだんと聞き取れ、意味を理解することができました。とても嬉しく感じ、「もっと英語で会話したい」と思うようになっていきました。
- ・毎日大学に通い英語を学び、聞き取りが上達したこと。
- ・多くの友達ができたと同時に、様々な価値観を学べたこと。
- ・授業は全て英語だけだったということに最初はとても苦労しましたが、1週間くらい経つと英語も聞こえてくるようになりました。自分の思っていることを相手に伝えるということは、満足には学ぶことは出来なかったけれど、授業によってリスニング力は向上したのではないかと思います。

- ・実際に現地の大学に行き、全て英語で授業を受け、日本とは違う環境で授業ができたことです。
- ・英語で話すことで自分の意思を伝えられるようになった。学習以外にも買い物などで言っていることが自然とわかるようになった。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・毎回の授業でテーマ（ジェンダーや環境問題など）が決められており、そのテーマに沿って、クラス内で意見を交換したり、プレゼンテーションを行い、理解を深めた。また、環境に配慮した取り組みを行っている店に実際に足を運び、店員さんにインタビューし、その内容をプレゼンするという授業も行った。
- ・授業以外の学習については、二回に一回くらいのペースで宿題が出され、文章を考えてきたり、プレゼンの準備をしていくというような内容の宿題だった。生活面では、UBCの敷地内には植物園や博物館など様々な施設が充実しており、学習面以外でも様々な経験ができた。
- ・現地の人にインタビューをして、その内容をまとめてグループワークをし、プレゼンを行った。
- ・ホームステイでは実際にカナダの文化に触れることができ、充実した生活を送ることができました。
- ・平日の朝9時から午後4時まで授業がありました。
- ・主に「環境」について学びました。普段、日本の大学では学ばない内容なのでそれを英語で伝えることが難しかったです。でも、海外の環境問題についても知ることができ、実際に発言してみんなで考え、恥ずかしさも全然感じませんでした。その他に、大学内にいる人にそれぞれの例題についてインタビューするという授業もあり、コミュニケーション能力がついたなと思います。
- ・トーテムポールなどカナダの文化や、カナダの会社について学んだ。また、現地の方にインタビューをするなど、現地の人とも触れ合う機会がとても多かった。
- ・ELIにバンクーバーの観光地をまわられるツアーがたくさんあり、観光も充実して楽しめた。
- ・ディスカッションやプレゼンが多い授業だった。また、ポッドキャストを作ったり、CMを作ったり（動画制作）、学内を歩きまわって色々な人にアンケートを取ることもあった。パソコンの教材を使い、単語の確認をしつつ、クロスワードパズルをやった。発表原稿などは、家に帰ってからホストファミリーに見てもらい、教えてもらっていた。
- ・授業は主にディスカッションや自分から発言する機会が多い授業でした。テーマは3週間で3つあり、コミュニティー、環境、消費者運動について勉強しました。午前の授業は主に文法や英単語についても触れながら、ディスカッションや発表などを行いました。午後の授業では外に出てインタビューを行ったり、データを集めたりなど教室外での学習や、グループでの発表などを行いました。授業以外では、家に帰って単語の復習をしたり、ホストファミリーとの会話のために英語を調べたりしました。
- ・ゲームをしながら動詞の使い方や形容詞、副詞、助詞、疑問形などのスピーキングや発音の練習をした。また、博物館へ行って説明文を読み取ったり、カナダの文化を学習した。
- ・生活面では積極的に出かけ、ショッピングや観光をする中で現地の方とコミュニケーションをとった。さらに、ホームステイ先では朝食、夕食を共にし、授業外でも英語を話すよう心がけた。
- ・授業、ホームステイでは、普段日本で外国人と直接関わる機会が少ない分、英語でコミュニケーションをとることの難しさを感じた。
- ・授業以外でも、買い物などで現地の人と関わる機会があり、たくさんの人と交流ができて、とても勉強になった。
- ・完璧な英語ができなくても、会話をしようとする力を身につけることができたと思う。
- ・簡単な英語でも、コミュニケーションを取ろうとすれば取れることを学んだ。
- ・午前と午後で授業が分かれており、その授業のほとんどがアクティビティによるものでした。与えられたトピックについて、少人数でグループに分かれて意見交換をしたり、大学内にいる学生たちにインタビューをするなど、能動的な形態でした。
- ・生活面では、さまざまな現地の人々と交流することができました。特にホームステイ先では、家族の方々が温かく迎えて下さり、積極的に英語で会話することはもちろん、異文化にも触れることができました。
- ・見知らぬ人にインタビューをする授業。環境、消費者について学ぶ授業。ペアになってプレゼンをする

授業があり、それによってSpeaking, Listeningが上達した。日本とは違い全ての授業において自分の意見が求められた。

- ・放課後はUBCの課外活動に参加したり、クラスメイトや学校の友達、ルームメイトと観光をした。
- ・午前と午後に授業が別れていて、午前は文法・会話を中心に行い、午後は週末に行うプレゼンの資料作りなどを行いました。
- ・街やお店でももちろん英語なので授業以外のところでも英語をたくさん使うし、実用的な英語も身に付きました。
- ・現地の人に実際に質問しに町へ出かける。プレゼンテーション、ポスター作りなど。買い物、バスや電車は毎日やるものだから自然と会話力が身についた。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・言葉の壁を乗り越え、交流することの大切さや、異文化を体験することの面白さ。また、留学先で出会った英語学習に対する意識が高い友人たちからも様々なことを学ぶことができた。
- ・自分で考えて行動する力を養うことが出来たと思います。異国の地で一人で生活するという事は、常に今やるべきことを考えた上で、その先の行動まで予測して動かなければならないので、常に緊張感があり、大変だとも思いましたが、自分にとっては大きな成長だったと思います。
- ・英語力のスキルアップはもちろんのこと、現地の方々にインタビューを行うということから、コミュニケーション力も高めることができた。
- ・新たな知識とカナダの文化を学ぶことができた。また、日本とは異なった授業体系、大学内の雰囲気などを感じることができた。そして、多くの友達ができ、クラスには日本人以外の人もいたため、カナダの文化だけでなく、日本、台湾、イエメン、中国といったように様々な国の話が聞けた。また、自分に今何が足りていないかがよくわかった。
- ・一番大きかったのは積極性が身についたことです。今まではあまり自分の意見や思っていることを主張するのが得意ではなかったのですが、海外では自分の意見を言わなければ生活していけない場面が多々あるので、自分の意見を言うていくうちに、以前より自分の希望や主張を積極的に話せるようになったと思います。
- ・シャイにならずに積極的に英語を話すことの重要さや、文化は違えどお互いに尊重しあうことの大切さを感じることができた。
- ・積極的に自分の意見を発信する力が身に付き、自信にもつながりました。留学前までは、自分の考えはもしかしたら間違っているのでは、という不安からなかなか発言できないことが多かったです。しかし、正解か不正解ではなく、意見を述べるのが第一に大切であると学ぶことができました。
- ・Listening力が上達したと感じる。また、英語を話す事が苦ではなくなり、積極的に話すようになった。更に、多くの人と関わる事で友達も増え、様々な価値観を知る事ができた。当たり前のことではあるが、自分の意見を持つことの大切さを改めて学んだ。
- ・コミュニケーション力をこの留学で得られたと思います。UBC、ELIは生徒と先生の距離が近いこともあり、疑問があればすぐに先生に質問できました。もちろん色々な大学から来ている人たちとの交流もあり、英語で誰かに話しかけるといことに恐怖感などはなくなりました。自分の英語力が低くても、伝えられるようにはなったと思いました。
- ・間違えるのを恐れて発言を控えていましたが、留学に参加して内気な部分が無くなったと感じました。そして、英語を話す際さっと言葉が出てくるようになりました。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- ・積極的に意見したり、行動することの大切さを今回の留学で学べたので、それを日々の大学生活に生かしていきたいと思った。受け身ではなく、何事にも積極的に臨む姿勢を心がけていきたい。
- ・今後は英語を使える就職先も視野に入れながら英語を勉強していきたいと思っています。
- ・留学を通して得た行動力を生かして、今後は自分に必要だと思うこと、やりたいと思ったことにどんどん挑戦していきたいと思っています。そして、現地で英語を学んでみて、もっと出来るようになりたいと思ったので、次の長期休みにも海外に足を運ぶつもりです。その時、今回よりもさらに有意義な時間を過ご

- すために、日頃の英語学習にも力を入れたいと思います。
- ・カナダの授業で、発言するのは全然恥ずかしいことじゃないとわかったので、日本の授業でも積極的に発言して自分の意見を伝えていきたい。
 - ・留学してみて、改めて英語の大切さと自分の英語力を知ることができました。自分の英語力はまだまだだということがはっきりしたので、この経験をモチベーションにもっと英語の勉強をしたいと思います。
 - ・日本へ訪れた外国の方が駅や道で困っていたら、カナダで親切に道案内していただいたように自分から積極的に話しかけ、有意義な旅になるよう手助けしたい。
 - ・社会に出ると、会議やプレゼンなど発信する場が多くなり、また、コミュニケーションをとる相手も格段に増えます。そのような場面で、この短期留学で培った自発性を生かすことができたら良いと感じます。
 - ・日本には観光客が増えてきています。よく道やおすすめを聞かれるようになったので、恥ずかしがらずこの経験を生かしたいと思います。また語学力だけでなく、もっと日本の歴史などを知っておくべきだとカナダでも痛感しました。
 - ・TOEICの成績向上のため、もっと英語を勉強する。外国人と交流する機会を作り、会話をもっと続けられるように努力する。
 - ・毎日英語を使うことで耳が慣れてきたので、日本でも毎日英語を聞く努力をしたい。また、常に自分の意見を持ち、それを相手に伝えられるようにしていきたい。
 - ・何ごとにも積極的に失敗を恐れず挑戦していく姿勢が人を成長させると留学を経験し周りを見ていて感じた。この先も挑戦する気持ちを忘れず、英語だけではなくていろんなことに挑戦して知識を吸収していきたい。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・積極的に行動し、ホームステイ先ではできるだけ一人の時間を減らし、ホストファミリーとコミュニケーションをとることが大切だと思います。また、休日はできるだけ色々な場所に足を運ぶと良いと思います。
- ・話せないことは全く恥ずかしいことではないし、むしろ話さなくて当たり前だから、当たって砕けろという精神で行くとどんどん伸びていくと思う。
- ・留学は本当にいい経験になります。学生のうちにしかできないことを沢山して楽しんでください。
- ・私は一年生の時も留学に行こうと考えていましたが、不安な気持ちが強く、費用のことを理由にして諦めました。しかし二年生になって実際に留学に行き、一年生で諦めたことを後悔しています。留学にかかる費用は決して安いとは言えませんが、費用以上に、留学では、これからの自分の人生を豊かにするものに出会えると思います。勇気を出して海外に行き、貴重な経験を沢山してきて下さい！
- ・3週間という短い期間でどれだけ力を得ることができるかは自分次第だと思います。せっかく留学にいけることができるのなら、後悔しないように積極的に頑張ってきてください。
- ・私は三年生で留学しました。周りから、遅くない？就活の準備をした方がいいと言われました。しかし、学年など関係ないと思いました。この留学で学年や学部を超えて友人を作ることができました。また、学校に通うだけでなく、留学先では日本で体験することができないアクティビティもたくさんあるので勉強ばかりで嫌だなどと思わないで下さい。そして授業も教室ですっとやるわけではなく、市内の環境施設に行ったり、他のクラスと合同授業をしたりするのでとても飽きない授業です。長い休みは学生の期間だけなので、学生のうちに行ける人は行くべきだと思います。
- ・様々な国の方と様々な文化に触れることのできるいい機会です。私はあまり英語が得意ではないため、参加する時はとても不安でしたが、授業のクラスもレベル別なので自分に合った勉強をすることもできます。アクティビティーなどもたくさんあるので、たくさん体験した方がいいと思います。ぜひ楽しんで、学習してください！
- ・上手な英語が話せなくても、コミュニケーションをとろうとする勇気を出すことが大切だと思います。私はもともと、英会話は苦手な方ですか、自分の知ってる英語だけでも会話することができました。授業や、ホームステイを通して、もっと話せるようになりたい、英語ができるようになりたいと絶対思えるはずなので、この研修に参加することをお勧めします。

- ・すこしでもやってみたくて興味を持ったら、何でも行動してみることが大切。行動せずに後悔するのはもったいないです。たくさんの方の経験を吸収して、有意義な留学体験になることを祈っています。
- ・一か月という短い期間なので得るものはそんなにないと思っていました。しかし、学習意欲が向上し、友達も沢山できるのぜひ行ってみる人をおすすめします。外国に行って長く過ごせる時間は社会人になったら簡単には取れないし、学生だからこそある休みを有効活用していただきたいです。たとえ日本人と会話するにも環境が違っていると気持ちも新たにリフレッシュしながら会話できます。特にバンクーバーは過ごしやすく、行って後悔することはないと思います。
- ・授業も放課後も休日も全部楽しく、とても良い経験を送れます。そして学年学部関係なくみんなと仲良くでき、友達の幅も広がります。

研修・留学名：ディーキン大学 短期語学研修（オーストラリア）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・ホームステイや学校で、現地の人や他の国の人、日本の他の大学の人、今まで知らなかった大妻の人など、たくさんの方に出会えたこと。
- ・語学学校に通ったこと。クラスにサウジアラビア、タイ、スペイン、中国からの留学生がいたのでコミュニケーションをとりながらそれぞれの国の文化や慣習を学ぶことができた。インターネットで様々な国の文化などを調べることはできるが、実際に相手と話すことによって自分が思っていた国のイメージが変わり、調べるだけでは分からないことを知ることができた。
- ・英語だけではなく、多国籍のクラスでオーストラリア以外の文化や言葉を知ることができたことです。語学面では英語のみの環境で生活していたため、自然と会話ができるようになりました。日本では得られないことを数多く経験しました。
- ・自分の英語力で、どれだけコミュニケーションをとれるか、また、何が自分に足りてないかを知ることができたこと。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・授業ではリーディングを通して文法や単語を学び、ペアやグループになって質問の答えを導き出したり、意見を言ったりした。自分の国のフェスティバルについてのスピーチや、パワーポイントを使って自分が住んでいる町とメルボルンの違いについてプレゼンテーションをおこなった。
- ・授業では、グループを組んで雑誌をつくり、お互いの国のお祭りや料理などを発表することがありました。授業は少人数制であるため、わからないことがあればその場で先生に質問することも可能でした。また、課外授業として戦争慰霊碑やマーケットを巡ることもありました。授業外の時間は課題をこなしたり、友人とカフェに行ったりと充実した時間を過ごすことができました。そして、休日は学校が企画したツアーに参加し楽しい思い出ができました。
- ・授業では、主に文法や、オーストラリアのスラングなども習った。お昼休みにクラスの友達とご飯を食べたり、先生と会って立ち話をするなど充実していた。
- ・授業ではリスニング、リーディング、スピーキング、ライティング、のテストに向けて、エッセイを書いたり、プレゼンテーションをしたりした。休み時間は他国の学生たちとゲームをしてコミュニケーションをとった。休日は外出をすることで多くの現地の方とコミュニケーションが取れた。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・興味関心を広げるきっかけとなった。また素敵な人たちとの出会いによりたくさんの方の刺激を受けた。
- ・英語が不得意でも、積極的にコミュニケーションをする意義があるという気持ちを得た。
- ・異文化体験、英語だけで生きていけるという自信、英語力
- ・今までテレビやインターネットで取り入れた情報だけでその国のイメージを決めてしまっていたが、留学期間中に様々な国の人々と会話したことによって、文化や慣習の違いを受け入れることができた。
- ・英語しか使えない環境にいるため、自然と行動力を養うことができました。自分で何とかしないと相手

とコミュニケーションを取ることはできないので、わからないことがあれば自分から質問するようにしていました。

- ・今回初めての海外だったので、最初は不安でしたが、沢山の人の人に出会って、日本にいただけでは見られない景色をみて、忘れられない経験になりました。
- ・積極的に行動する力と、自力で挑戦してみようという意欲を得た。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- ・就職先を考える上で国際関係の仕事を視野にいれたい。留学期間中に勉強不足だったところをさらに力を入れて学習していきたい。
- ・今回の留学を通して、視野を広く持つことの大切さを学びました。自分が将来就職をしたら周りをよく見るよう心掛けたいと思います。
- ・映画などの娯楽や、オーストラリアでできた友人とのコミュニケーションを通して英語力を磨き、これからの友人関係や将来につなげたい。まずはTOEICを受け経験を生かそうと思う。
- ・また海外の人と話す機会があれば、話のきっかけになるのではないかと思います。今回の留学で、今まで海外に行くことに抵抗があったのですが、たくさんの国に行こうという新たな目標ができました。
- ・私は消極的な性格だったのだが、留学をしてから新たなことに挑戦することへの抵抗感がなくなった。これからあらゆることに積極的に挑戦していきたいと思う。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・留学中に現地で単語や文法を覚えるという目的ではなく、コミュニケーションをとることを目的にしたほうが良いと思います。実際に留学をしてみて、相手と会話をするときに一つ一つ言葉を辞書で調べていては会話にならないし、相手も気疲れしてしまうということに気づきました。うまく会話ができるようにするためには前もって単語や文法を勉強することをおすすめします。
- ・たった1ヶ月されど1ヶ月。1ヶ月間で学べることはこんなにもあるのかと驚かされました。足を1歩踏み出すのは怖いけれど踏み出したその先には日本とはまったく違う光景が待っています。また、それが今後の人生を左右するかもしれません。今しかできないことに挑戦してください。
- ・留学に行く前の自分と行った後の自分では、語学力だけではなく、生活面でも確実に変化が起きました。何か少しでも刺激や変化を求めているのなら、絶対に参加することをお勧めします。

研修・留学名：モナシュ大学 短期語学研修（オーストラリア）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・日本にいたら経験できないことをたくさん経験することができた。
- ・常に英語を使う環境に身を置くことで語学力が向上した。
- ・英語を使用した日常生活です。週末に出かけることも英語を使用するよい機会でしたが、平日の授業や、午後友人と出かけたり、大学内に残って課題をした時間が最も有意義な時間を過ごすことができたと思います。
- ・実際にオーストラリアで生活をし、生活習慣やイベントなどオーストラリアならではの体験ができた。また、メルボルンは様々な国籍の人が生活していて、日本との文化の違いや新たな価値観を知ることができ、とても新鮮だった。
- ・日本では学べないオーストラリア文化を勉強したり、様々な国の方と友達になることができ、毎日充実した日々を送ることが出来ました。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・授業では、教科書をもとに英文を読んで口頭で答える。文章の読み方のテクニックを学んだ。リスニングやリーディングをするときは、必ず「興味のある内容」を選ぶ。これは私にとって自分の英語を向上させる近道になった。手は上げず自ら発言する。母国語を話したり、遅刻すると追加の宿題が出される。

このルールのおかげで、教室内ではどんな時もみんな英語で話した。

- ・グループに分かれゲームをしたり、パワーポイントをつくり発表をしたりした。また、英作文を書いたり、長文を読んだりする授業も受けた。
- ・授業外では、ミートアップという交流会に参加し、様々な国の人たちと交流した。
- ・授業内では、たまにゲームやクイズを行いながら単語や、文の作り方を学びました。また、会話の手段が英語しかないクラスメートとジェスチャーを交えながらコミュニケーションを取りました。
- ・授業外では、ホストファミリーとの会話や、テレビを英語で鑑賞したり、お店の人や、街ゆく人に道を尋ねたりして聞く力と話す力が身についたと思います。
- ・授業では、普段の生活で使う英語の基本フレーズや、英語でのコミュニケーションの仕方、リスニングなどを学んだ。また、クイズやゲームなど楽しく取り組めるような授業も行われた。
- ・パワーポイントを通して発表をしたり、スマホやパソコンでアクティビティをしたりして楽しく英語の勉強をすることができた。
- ・授業以外では、レストランやショッピングセンターなどで店員さんと英語で会話をすることによって日常会話を学ぶことができた。ホームステイ先では、毎日家族と話すことで英語を学ぶことができた。
- ・道案内やメールの書き方、自分の出身国や日常生活のことなどをWriting、Listening、Reading、Speakingの点から学んだ。
- ・授業外ではメルボルンの観光をするなど、日本ではできない経験をするすることができた。
- ・英語での説明による文法やリーディング、スピーキング、ライティングなど楽しい授業でした。
- ・主にwritingの授業が多く、手紙を書いたり、物語を読んでその物語を自分でわかりやすく書き直したりという授業でした。そのため、留学前よりも英文をスラスラと書けるようになりました。クラスに中国人の留学生もいたので、学校終わりに一緒に遊びに行くことができました。英語でしか会話ができないので、自分の思っていることを伝えるのは難しかったのですが、良い経験になりました。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・文化の違いを自分の肌で体感することができた。
- ・恐れずに英語を使うこと、コミュニケーション能力、英語の聞く力と話す力を得たと思います。また、異国の地に身を置くことで異文化や習慣を学ぶことができたと思います。
- ・自立すること、積極的に行動する力、コミュニケーション能力、日常で英語で会話をする力
- ・様々な文化にふれることで、自分自身の考え方の視野が広まった。
- ・メルボルンは初めて訪れて、はじめは道に迷ったり、電車の乗り方がわからなかったり、一人でどうしようもできないときがありました。うまく英語を話したり、聞き取ったりできなかったのですが、人に自分から話しかけ、何度も聞いたりしました。新たな土地で自分から道を切り開いていくこと、一人でも失敗を恐れない強い気持ちを身に付けることができたと思っています。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- ・語学学校で学んだ勉強法を今後の勉強に取り入れる。他人の多様性を理解し尊重する。彼らの良い習慣を自分に取り入れて、健康的な生活にしたい。将来、家庭ができて余裕があれば、ホームステイとして留学生を受け入れたい。
- ・私は、将来英語を生かせる仕事に就きたいと考えているため、留学で学んだことを忘れずに、これからもっと英語を勉強していきたい。
- ・英語を使ったり、外国の方と関わる仕事をしたいと考えているので、この留学で学んだ表現を使っていきたい。
- ・道端で困っている外国人が居たら、恐れずに声をかけて手助けをしたり、学校内の英語の授業で生かしていきたいと思います。また、来年には就活があり、これからは国際的な社会になっていくので、その場面でも生かしていきたいです。
- ・就職活動で、英語をたくさん使う企業に就職できるように英語力をさらに鍛えていきたい。また、積極的に行動する力を普段の日常生活から生かして、悔いのないように生活をしていきたい。
- ・英語の勉強はこのまま続けていきたい。今は、簡単な英語や日常生活程度の英語だが、仕事やビジネス

でも活かせるように学習していきたい。

- ・これからの学生生活や社会に出て働いていく中で、視野を広く持つことを忘れずに卒業論文や就職活動、社会生活に取り組んでいきたいと思う。
- ・自分の英語のできなさを実感したので、日本でもっと英語を勉強して上手に出来るようになりたいです。

日本と留学先の国との違いについて気づいたことがあれば書いてください。

- ・街やバスの中などでも、全体がとても活気にあふれていた。オーストラリアは移民国家と勉強していたが、色々な国の人がいて、市内にも色々な国のレストランがあり、週末には色々な国の祭りなどが開催され、国際色豊かだった。カフェ文化が盛んで、町の至る所にカフェがあり、一日多くの人でにぎわっていた。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・新たな目標が見つかるとても貴重な経験になると思うので、留学先でいろんな場所に行ったりいろんな人と話したり、たくさんの経験をしてきてください！
- ・社会人になってから留学は難しいと思うので、学生のうちに経験するのがいいと思います。
- ・5週間は思ったよりもあっという間に過ぎていくので、最初のうちは慣れないこともたくさんあると思うけど、悔いのないように自分のやりたいことはしっかりやって、積極的に行動して行ってほしいと思います。
- ・英語のリスニングは、留学前に必要な準備だと思いました。耳慣れしておくだけでも、大きな助けになると思いました。ホストファミリーや先生はゆっくり話して、わかりやすい単語で話してくれますが、現地での買い物やバスなど耳が慣れていれば、聞き取れることもたくさんあったと感じます。
- ・日本と生活様式など違うので色々な発見ができます。積極性も身に付き成長できると思うのでぜひ参加してみてください。

研修・留学名：オックスフォード大学ハートフォードカレッジ 短期語学研修（イギリス）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・毎日英語漬けだったのでヒアリングが上達しました。英語への抵抗感もなくなり、積極的に英語を使えるようになりました。また、一緒に行った仲間がとっても良い仲間です。素敵なつながりができました。
- ・毎日英国の文化に触れながら、授業や日々の生活の中で学生や教員など、現地の人々とコミュニケーションが取れたこと。
- ・プレゼンテーション 授業で学んだ内容とどうテーマを絡めるかを重視して発表内容を考えることで、今までの総復習ができた。RA(Residential Advisor) に原稿をチェックしてもらい、聞き手とアイコンタクトを取れるように原稿を何度も復唱して暗記した。また、いくつかアドリブを入れたり、質問にその場で答えたりすることによってどれほど自分の語力が向上したのか実感できた。
- ・小旅行がとっても楽しかった。世界遺産を見に行ったり、Oxfordにいたらできないことを体験することができました。
- ・授業でイギリス文化について学ぶだけではなく、放課後にはRAの人たちが街を案内してくださったので、よりイギリス文化を身近に感じられたこと。
- ・現地の人と英語を使って触れ合えたこと。今まで本や授業、ネットで学んできたイギリスを直に感じられたこと。イギリスの方から見た日本人の印象や、日本が人気だということがわかったこと。行ってみなければ分からなかったであろうことがたくさんありました。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・授業は、全て英語でイギリスの文化、発音、文法、語彙などについて学びました。午前の授業の時は、ティーブレイクという休憩時間があり、紅茶やコーヒーを飲みながら談笑したりしました。
- ・金曜日は、小旅行でシェイクスピアのゆかりの地であるストラットフォードやコッツウォルズに行きました。

- ・留学中は寮生活で、平日の食事は寮の食堂で食べていました。日本ではあまり食べられない料理も出たりしました。夜は、RAが考えてくれたアクティビティに参加したりしました。
 - ・授業では英語だけの授業で、学生と先生がインタラクティブにコミュニケーションをとり、英語で積極的に自分が発言したりする練習ができました。政治やロイヤルファミリー、シェイクスピアなどイギリスの文化について英語で学びました。また、最も難しかったのは、発音の授業です。みんなでたくさん練習しました。留学の最後は、ペアでプレゼンをしました。今回の留学で学んだポイントを詰め込んでたくさん練習して本番に臨みました。
 - ・生活面では、現地の学生のRAがたくさんのアクティビティを計画してくださり、英語で楽しくコミュニケーションが取れました。小旅行でイギリスの観光名所を回れて楽しかったです。
 - ・1日5時間の授業があり、基本的にずっと話すという授業スタイルだった。先生が皆に均等に話を振ってくれたり、意見を言う事を上手に促してくれたため、最後の方ではみんなが最初よりも自発的に発言するようになっていた。
 - ・小旅行の前日には目的地についての授業があり、事前知識を持ったうえで行けたため、より楽しく、深く学ぶ事が出来た。
 - ・オックスフォード大学の紹介、英国の文化の紹介、「R」「L」、の発音の違いや正しい「TH」の発音、ショッピングやレストランで使われる基本用語、イディオム、デイベイト、世界の固定観念（ステレオタイプ）、writingの書き方、小旅行で行く都市の歴史や特徴などを授業では学んだ。
 - ・アフタヌーンティーやガラディナーを体験し、現地の学生や先生たちとお互いのことを話したりしてとても有意義な時間を過ごすことができた。
 - ・授業では、発音や協調、文法等、自分の英語力が向上するような内容はもちろん、英国の文化についての授業を多く受けた。祭日、迷信、食文化や建築についての授業を通して、人々の宗教への考え方や文化の裏にある歴史について学ぶことができた。また、ハリーポッターや不思議の国のアリス、シェイクスピア等、イギリスでもオックスフォードならではの内容の授業も多々あった。授業外では、RAのアクティビティに参加することで、英国の日常生活を体験することができた。またアクティビティとは別に、授業終わりにRAが博物館や美術館、授業内容と関連している植物園に連れて行ってくれた。周辺にそのような由緒ある箇所がいくつもあるのは流石だなと思った。
 - ・授業ではイギリスの地理や伝統行事、言い伝え、シェイクスピアについて、アリスの作者について、イギリス英語とアメリカ英語の違いなどの文化的なことから、プレゼンテーションのやり方、文章の書き方、意見交換や議論の際の言い回しなど英語そのものに関する事を学びました。また、授業以外では街に博物館が多くあったのでそれを見に行くことが多かったです。とても歴史のあるものが多く圧倒されました。
 - ・すべてアクティブ・ラーニングでした。簡単なゲームやクイズから始まり、イギリスの文学、生活、歴史などを学ぶ授業と、最後のプレゼンテーションの作り方、会話表現や日常でよく使うフレーズなど、トピックはさまざまでした。どれも本当に楽しかったです。
 - ・日本とは授業スタイルがだいぶ違うアクティブ・ラーニングだったので、最初は慣れないところもありましたが、このような形の授業の方がとても楽しくて、自分に合っているなと思いました。授業の中では英語の授業はもちろん、イングランドの劇作家・詩人であるシェイクスピアの数々の作品について、イギリスの建築物や食べ物についても学びました。授業以外では、空き時間に学校の周辺を歩いたり、買い物をしたりと自由に行動できました。困った時もRAや、町の人に聞くことが出来たので勉強にもなりました。
 - ・小旅行の前日には、小旅行で行く場所の文化や歴史をペアで発表したり、クイズ形式で学べたので、とても楽しかった。毎晩のアクティビティーも、楽しいものばかりだった。
 - ・イギリスの歴史や著名な作品について学びました。授業のはじめには、ウォーミングアップとしてクイズをしました。授業以外では、休日に出かけたロンドンで博物館をめぐり、学芸員資格を取るためのモチベーションを上げることができたと思います。
- 生活面に関しては、日本と異なったところが多くあり混乱しましたが、工夫しながら3週間をすごすこ

とができたと思います。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・自分にとって一番大きかったのは、英語にコンプレックスがなくなり、自信がついたことです。かけがえのない仲間ができたのも大きいと思います。
- ・上手く話せなくても気にせず英語を話す積極性。
- ・簡単な文をつなぎ合わすだけでもいいから、とりあえず話す、という英語に臆することなく会話をする勇気。そして現地の人とコミュニケーションが出来たという、達成感と自分の英語力への自信が獲得出来たと思う。
- ・英国の文化を学べたことはもちろん、以前よりも英語を理解することができるようになったと感じる。また、新たな人との関わりを築くこともできた。
- ・英語を積極的に話すことや様々なことに挑戦することの大切さを実感した。
- ・今までしたことのない体験をすることで自分の視野を広げられたとともに、楽しいとことが多かったと思う反面自分の言いたいことをうまく伝えられなかった悔しさもあり、外国語学習のモチベーションを高められたと思います。
- ・一番得られた力はプレゼン力だと感じました。3週間の研修最終日には各ペアずつに分かれ自分の考えたプレゼン内容を6分～8分の時間で発表しました。
- ・自分に自信を持てるようになりました。今まで英語力の問題もありましたが、自分から声をかけることが苦手で、伝えたいことも伝えられずにいましたが、今回の研修を通じて成長できたと思います。ただ、ひとりでも英語でコミュニケーションを取れるようになることや、もっと相手の言っていることを理解できるようになることなど新しい課題も得たので、努力していきたいです。
- ・積極的に何事も試してみることで、たくさんの経験を得ることができたと思います。さらに、イギリスにいかなくては知ることのできなかつた人々の生活や歴史を知ることができました。
- ・日本にいると自分の英語力がどのぐらいなのか分からなかったけれど、この研修で、自分が周りの人と比べてどのぐらいの英語力なのか、比較することができた。
- ・自分の苦手な部分を発見でき、自分に今・これから何が必要なのかということや、夢についても考えることができました。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- ・今後は、英語の公式なテストでハイスコアをとって、自分の英語力を客観的に示し、就活や今後のキャリアにつなげたいです。
- ・研修に参加した経験を卒論にも反映させていきたい。
- ・留学で得た失敗を恐れない心を今後の学業や、就職に生かしたいと考えています。
- ・2020年には東京五輪が開催され、より海外から来日される方が増えると考えられる。こうした状況のなかで、留学中私が現地の人々にしてもらったように、私も英語を用いて積極的に声をかけられるようにしたい。
- ・語学の勉強に対するモチベーションを維持し英語のみならずそのほかの言語にも目を向けたいです。また自分の視野を広げることの大切さを実感することができたので、新しいことに積極的に取り組んでいきたいと思っています。
- ・自分から積極的に行動・発言していきたいと思いました。RAや先生たちのように、私が発言することを正面から受け止めてくれる人はたくさんいるし、頑張ることはなにも恥ずかしいことではないと思いました。そして、日本で外国人の方に会ったら、私がイギリスでもらったように親切にしたいと思いました。
- ・英語はもちろん、その他の言語習得に挑戦すること、英語が大好きであることを再確認できたので、自分の将来に役に立つようにしていきます。

日本と留学先の国との違いについて気づいたことがあれば書いてください。

- ・やはり授業スタイルがアクティブラーニングだったので、積極的に授業に参加することができました。また様々な人との交流が盛んで、人脈が広がりとても楽しかったです。

研修・留学中に困ったことはありませんか。それはどんなことでしたか。

- ・意外と日本について詳しく知らなかった。特に芸術や歴史分野において日本に興味をもってくださる方が多かったのにも関わらず、こちら側がスマホで検索しながら説明するという事も少なくなかった。食べ物や観光名所だけでなく、音楽、絵画、建造物についての知識を持っておくべきだった。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・英語で話すことに躊躇しているのはもったいないので積極的に話すべきだと思う。たくさん間違えてたくさん学んでほしい。
- ・プログラムに掲載されている内容以上に、向こうにはたくさん経験が待っています。自分の行動次第で、留学の充実度は格段に変わります。「せっかく来たのだから」と考え、気概を持って様々なことに挑戦してみてください。
- ・現地の方と接して、たくさん交流することが良いと思います。授業にも積極的に参加することが大切です。
- ・自分の語学力に自信がなくても、多少文法が間違っている、相手には言いたいことがきちんと通じるし、的確にアドバイスもくれるので、伝えたいと思う気持ちが大切。また、せっかく外国に行くのだから、RAや先生に積極的に話しかけたほうが伸びる。
- ・文法や単語力はもちろん必要ですが、ある程度バラバラになっても話してみる、わからない単語が出てきてもすぐに調べるのではなく、自分の知っている単語でその単語の説明を試みるなど、自ら英語にふれる機会をつくると良いと思います。

研修・留学名：フライブルク大学 短期語学研修（ドイツ）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・最も有意義だったのは、何よりドイツ語ばかりが聞こえる環境にいたことです。大学の授業ではあまり触れられないネイティブのドイツ語が周りに溢れていて、とてもよい環境でした。また、実際に行くことで細かな文化やマナー、ルールなどを知ることができました。
- ・毎日ドイツ語に触れていたこと。
- ・毎日、同じ時間に起きて活動し続けることが出来たことです。行きたいところややりたいことがとても多かったのと、時間が限られていたので積極的に行動しました。そのなかで、ドイツの文化にもたくさん触れられ、現地の方とのコミュニケーションも必然的に増えました。
- ・他国の学生や店の店員さんと沢山コミュニケーションをとることができた。ドイツ語が出てこなかった時は英語で対応するなどして、他国の人たちの考え方や日本との違いを感じることができた。
- ・ドイツの文化にじかに触れることができた点。大学で授業を受けることによって、ドイツの文化に興味を持つ他国の学生と知り合うことができた点。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・通常の授業のほかでは午後に二つセミナーをとっていました。朝9時～17時半までドイツ語漬けだったのはよかった。
- ・グループで昨日の出来事を話す、とにかく話すということをやりました。買い物や外食など最初は日本と全然違って苦勞したが、最後は慣れてきて最初に比べてスムーズにできた。
- ・毎日午前中9時から13時まで、ドイツ語のテキストを使った授業を受けた。先生は9割ドイツ語で説明して、生徒がわからなかった場合のみ英語を用いて説明をしていた。授業はドイツ語習得度レベルに分けられていた。私のクラスでは、手を挙げるということはせず、分かる人がどんどん答えていくスタイルだった。しかし、発言を全くしない人には、先生が強制的に当てていた。また、毎日宿題がでた。
- ・授業では発音や、生活の中で使えるドイツ語を中心に習った。授業以外では、週末の旅行でアルザス地方やシュトゥットガルトに行き、平日の放課後には、ヴァーゼルにも行くことができた。大学の先生に

教えられたヴァインフェストにも行くことができた。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・研修に参加して得たものはドイツ語への理解度とドイツ文化です。三週間ドイツ語の勉強だけできたのは本当によい環境でした。また、ガイドブック等ではわからないドイツの文化を知ることができたのは大きいです。レストランの入り方や注文等、苦戦することばかりでしたがなんとかできました。
- ・積極的に自分の考えを伝えることの大切さ。
- ・日本にいた時よりも、何にでも挑戦する勇気を得たと思う。例えば、一人で町を散策し、店員さんやドイツ人に話しかけてみたことや分からないことがあったときに、そのままにしておくのではなく、進んでドイツ語（又は英語）を使ってコミュニケーションをとって見たことは、私にとって自信につながった。
- ・一人で電車のチケットを買ったり、人に色々訊ねたり、見知らぬ土地で一か月の間に自由に動けるようになったことで、一人で行動することにも自信ができました。
また、現地の方とのコミュニケーションなどを通して色々な体験が出来たので積極的に活動することの大切さがわかりました。
- ・日常で、ドイツ人がどのように会話をしているのか、どのように暮らしているのかを知ることができた。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- ・今後、日本でドイツ語を勉強する基礎にしたいと思います。
- ・将来の仕事につなげていきたいです。
- ・東京に住んでいると、たくさんの外国人を見かけるので、そのような人たちが困っていたら、進んで助けたい。また、ドイツ語が鈍らないように検定を受けたいと思っている。
- ・積極的に行動することで得られる交流や自信などを忘れずにこれからも、積極的に行動することで毎日を有意義なものにしていきたいと考えています。
また、次回ドイツを訪れるときのためにもドイツ語の学習をすることやドイツで感じたドイツの方の優しさを見習いたいと思います。
- ・言語は使うことが大事だと分かったので、これからもドイツ語勉強し、機会があれば、積極的に話していこうと思った。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・なるべくドイツ語の基礎は押さえておくことをおすすめします。簡単なフレーズも言えるようにしておいたほうがいいです。あとは話しかけられたら怖がらずに返答してみる。ドイツ語が堪能ではないと判断されたら英語で話してくれますが、なるべくドイツ語を使うように意識したらいいと思います。
- ・この研修はドイツ語ということもあって、英語圏の留学より少し難しいと思います。しかし、ドイツ語が好きな方は、授業や生活面でドイツ語漬けになれるので、とてもおすすめの研修です。日本とは違い、日曜日はほとんどのお店が閉まっているなどといった不便さもありますが、逆に日本にはない町の人たち、お店の方の温かみを感じることができると思います。
- ・フライブルク大学には日本語を話せる人がたくさんいますし、ドイツの人は優しいのであまり心配することはないと思います。
また、授業も簡単なクラスもあるので忙しくない一年生のうちに参加するのがおすすめです。
- ・短期とはいえある程度あいさつや簡単なコミュニケーションくらいはできたほうがいいと思います。
- ・文法や、発音に自信がなくても、自分のしたいこと、考えていることは話したほうがいいと考える。

研修・留学名：レンヌ 第2大学 短期語学研修（フランス）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・平日の朝から夕方までである授業です。ほとんどの授業が参加型で、当然のことながら全てをフランス語で学ぶため、最初は戸惑いましたが、先生も学生も優しく、親身に教えてくれ、フランス語の上達に一番繋がった時間でした。またフランスの文化だけでなく、さまざまな国籍の人が参加していたため他国

の文化も知ることが出来ました。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・授業内容は主に文法、発音、作文、日常会話、応用、文化が中心でした。他にも映画や音楽、上級クラスになると歴史や芸術の授業もありました。特に発音の授業は印象的で、自身の発音した音声を録音し、聴くことが出来るため自身のフランス語の発音の上達に繋がったと思います。
- ・放課後にアクティビティがあってレンヌの文化を知ることが出来たり、他クラスの学生と交流することが出来たりしました。2週間に1度ブルターニュ地方の観光をする日があり、現地の人しか知らない観光地を案内してもらえるのも良かったです。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・1つはフランス語の上達、もう1つは生活面での自立です。レンヌは学生都市ですが、町中に出るとあまり英語を話せる人がいません。そのため何をするにもフランス語を使うので、常にフランス語を考えていました。慣れていない場所での生活に最初は戸惑いましたが、一生懸命伝えようという姿勢を見せると応えてくれる人が多く、自信が持てるようになりました。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・朝から晩までフランス語の授業があるため、本当にフランス語を勉強したい人が参加するべきだと思います。生半可な気持ちで行くと本当につらいです。しかし1ヶ月フランスにいて聞き取りや簡単な会話、発音は確実に上達することができます。またレンヌは何を食べても美味しく、町並みもきれいで親切な人が多いため、留学するにはとてもいい場所だと思います。

研修・留学名：国立台湾師範大学 短期語学研修（台湾）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・研修に参加して最も有意義だと考えることは台湾師範大学の学生との交流会です。交流会は全部で三回あり、私は一回目と三回目に参加しました。一回目は授業が始まる前だったので自分の伝えたいことがあまり伝わりませんでした。三回目では前よりも言いたいことが伝わったのでより楽しい交流会となりました。
- ・実際に中国語が飛び交っている場所で生活することで、より中国語を身近に感じる事ができたことです。午前中はしっかりと授業を受けて、午後の時間は学んだことの復習をしたりと時間を有効に使い、また、街に出て台湾人の日々の過ごし方を見たり、自分も感じたり、体験したりと、毎日が新しい経験や発見ばかりで、ただ教科書で学ぶだけでは学べないことを学べたことです。
- ・午前中にしっかりと勉強をして、午後には自由な時間が沢山あったので観光を楽しめたことです。三週間もの間、中国語の学習と並行しながら知らない土地に友達と遊びに行けたことが、毎日充実していたなと思います。
- ・中国語を日常的に使用しなければいけない環境に身を置けたことです。大学で語学を勉強していても現地では話せないことを目の当たりにできました。
- ・実際に現地の人と会話をする機会を得て、発音の違いや台湾独自の表現があることに気が付いたことです。日本で学習している時には分からなかった微妙な言葉のニュアンスの違いや、教科書には載っていない言葉なども知ることができて、単語の量を増やすことができました。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・授業は全て中国語で行われ、積極的に中国語を話したり、教科書を読んだりしました。また、ペアに分かれて、中国語で対話の練習をしたりしました。また、先生は台湾の文化や場所、食べ物のことについてさまざまなことを教えてくれました。
- ・授業以外での学習では、台湾茶道や太極拳、組みひも作りなどいろいろな体験ができました。また、校外授業では普段自分ではなかなか行けない有名な場所に行くことができました。台湾での生活は、驚き

と発見ばかりでとても新鮮でした。食文化や交通、街並みと日本とは違うことばかりで、一日一日がとても楽しかったです。

- ・授業は少人数制だったので先生としっかりとコミュニケーションが取れました。一方通行の授業では無く、先生と学生皆で学んでいるような感覚でした。単語を覚え、覚えた単語で遊ぶことを繰り返しレクリエーションのような授業形式だったので、学んでいる時間はあっという間でとても楽しかったです。
- ・研修・留学では中国語でたくさん話せるようになることを目的とされていて、相手と1対1での会話を主に行いました。授業以外の学習はできるだけ話せるようになりたかったので話す機会を増やすために外に出かけ現地の人と会話するように心がけたことです。
- ・5、6人一クラスで勉強しました。記述はほぼなく、発音練習や音読などの発声練習がメインでした。予習復習は毎日あり、授業の初めに前日に行った事などを発表しました。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・自分から行動したり、勇気を出して中国語で話さないといけないので、毎日の生活から中国語や台湾の文化を学ぶことができました。また、自分の意見をしっかり持つことや自分の意見を発言することが大切だと学びました。
- ・何事も自分自身で考え、行動することの重要性を学びました。初めての海外での生活だったこともあり、慣れないことは多くありましたが、中国語の勉強を始め、台湾の生活や文化を体験することができてよかったです。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- ・今日本には台湾人観光客や中国人観光客が沢山訪れています。私が台湾で言葉が通じず困ったことがあったように、日本で言葉が通じず困ることがあると思います。そんな時に自分の中国語で手助けが出来ればいいなと考えます。
- ・より力を入れて中国語の勉強をして、中国語検定二級、準一級の取得を目指したいと思っています。また、言語だけではなく、台湾や中国の文化、風俗や食文化についてももっと深く勉強していきたいと思っています。
- ・観光地で、日本語が話せる店員さんが多くとても驚きました。やはり日本語が少しでも通じると安心するという経験をしたので、私ももう少し中国語を話せるようになれば日本に遊びに来た観光客の方の役にたてるかなと考えました。
- ・短期ではありましたが3週間現地で生活してみて多様な価値観や風習を身近で知ることができました。今後の自分の価値観や視野が広がるきっかけになったので、それを生かして様々な人々とまた交流を続けていきたいです。
- ・今後は留学での経験を生かして、日本で行われる中国語検定などの試験を受けていきたいです。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・中国語の授業を受けてそこで習ったことをすぐに使うことが出来るということが出来るのはこの期間だけです。たった三週間ですが、行きと帰りでは中国語を聞く能力や話す能力が少しでも上がっていることを感じました。どんどん中国語を使ってチャレンジして行ってほしいです。
- ・自分の価値観や考えにとらわれないで、積極的に交流をして、たくさんの方に自分からチャレンジをしに行って、いろいろなことを経験してください。そして、毎日の時間を一秒でも大切にしてください。
- ・初めての留学、一人で行く海外は不安なことも多かったですが、台湾は思っていたよりずっと安心して楽しく優しい国でした。言語が上手に伝わらなくても、人とコミュニケーションが取れるのだという自分自身への自信にもつながります。
- ・寮周辺はお店や駅が近いので生活するには非常に便利な場所です。はじめは不安かもしれませんが日本語が話せるスタッフの方は優しいし心配することはないと思います。

研修・留学名：梨花女子大学校 短期語学研修（韓国）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・現地の韓国人の学生と交流したこと。
- ・同じ目標を持ったいろいろな国の留学生と会話の表現練習や発表ができたこと。留学しないと経験できないことだと思う。
- ・韓国以外の国の人たちにも会うことができたこと。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・読む・書く・話す、全て韓国語のみで勉強した。考えた文章を前に出て発表することが多かったので自信に繋がった。
- ・授業以外の学習では、テストに向けて梨花女子大学校の学生が丁寧に教えてくれた。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・積極性を身につけ、言語だけでなく文化も学べたこと。
- ・韓国語がどの程度通じるのか実力を再認識し、今後どのように勉強を進めたら良いか分かった。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- ・韓国語をより上達させるためのモチベーション
- ・外国での生活経験で精神的に成長したと思うので、今後にいい影響を及ぼすと思う。

日本と留学先の国との違いについて気づいたことがあれば書いてください。

- ・勉強時間の差。学校内で10時から20時まで勉強して新鮮だった。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・韓国語がもっと分かるようになりたい、これからも頑張ろうと必ず思える研修なので、参加して忘れられない思い出を作ってください。

研修・留学名：マレー州立大学 長期留学（アメリカ）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・留学先での寮生活がとても有意義でした。日本人のルームメイトではないからこそ、英語力が取得でき、ルームメイトの国の文化、食生活、価値観なども学ぶことができました。英語だけでなく、他の国の方々とも触れ合う機会がたくさんあったので、とても価値のある経験となりました。
- ・様々な国から来た友人と交流し、異文化を知ることができたこと。
- ・寮や図書館で夜遅くまで過ごすなどの勉強尽くしの日々。課題の締め切りギリギリまで追われる事もあって辛い時もありましたが、周りの学生も一生懸命勉強していたので苦ではなかったです。
- ・大学の正規授業の受講です。ESLの授業でも十分英語力は伸びましたが、ネイティブのレベルと自分のレベルのギャップに改めて気づかされ、ますますモチベーションを上げることができました。
- ・日本人以外の人とルームメイトになり衣食住をともにできたことは、今後役立つと思いますし、それに加え英語にあふれた生活をする事自体が私にとってはとても素敵な時間でした。
- ・たくさんの素敵な人と出会い、一生の友達ができたことです。この1年、私は友人や知人に恵まれ、みんなとても親切で温かい人たちでした。その方達のおかげで、言葉では表せられないくらい価値のある留学期間を送ることができました。また、日本には体験できない、お互いの文化の良さや、国民性の違いなども、肌で感じる事ができました。
- ・日本人だけでなく、様々な考え方をを持った違う国籍のたちと、毎日切磋琢磨しあえる環境で過ごせたこと。
- ・留学中に受講した大学の授業です。アメリカの大学に入学しなければ体験することのできないことだと思います。留学後半のある程度力がついてきたところで、アメリカの授業に参加することはとても有意義なことでした。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・留学先ではEnglish as a Second Language: ESL、いわゆる語学学校で、グラマー・リスニング・リーディング・スピーキング・ライティング・コンバセッションと幅広く学ぶことができました。質問などもすべて英語であったので伝えることが難しかったですが、その分上達しました。授業以外の学習については留学生対象のイベントや学校としてのイベントがたくさんあったので、そこに参加して授業では習わないことや現地の方々と触れ合って文化についても深く学ぶことができました。近くにスーパーやレストランもあったので、友達と食事に行ったりなど生活には何一つ不自由がありませんでした。
- ・実際に大学の授業を受けられるようになるためのアカデミックな英語を中心に学習しました。授業中は学生同士でグループディスカッションが多々あり、英語を話す機会が多かったです。課題がたくさん出されていたので放課後はほぼ毎日図書館で勉強していました。また、ジャパニーズクラブというクラブ活動にも積極的に参加していたのでそこでアメリカ人の友人もできて、お互いに英語と日本語の会話練習をしたり、日本食を一緒に作ったりして交流しました。
- ・ESLの授業は英語で英語を学び、個人的にはgrammarは英語で教わる方が理解しやすいと感じました。Speechの授業ではテーマ毎のプレゼンテーションを行い、人前で発表する際の苦手意識が薄れました。大学の正規科目である写真の授業では、経済系の授業と違って教科書を沢山読む課題やレポートを書く課題は出ず、撮ってきた写真の発表とディスカッションを授業で行いました。対等に会話出来ない代わりに写真を評価してもらえよう努めました。結果として毎回褒めてくれる学生が多かったです。日々の生活は、毎日夜遅くまで図書館で勉強する外国人達から刺激を受け、私も夜遅くまで勉強するよう努めました。
- ・平日9:00~14:20みっちりESLで授業を受けました。先生方はいつも親身になって授業をしてくださり、分からないところがあり放課後に質問しに行った時にも、丁寧に教えていただき、演習問題を渡してくださることもありました。
- ・授業外では日本語クラブの活動や、ランゲージパートナーとの交流で生の英語力を身につけることができました。
- ・まずESLの授業でリスニング、ライティング、スピーキング、リーディング、グラマー、TOEFLの試験問題などをし、個人で大学のAmerican national government という政治の授業をとっていました。生活面においてはアメリカ人との共同生活や遊びにおいていろいろな刺激を受けることができました。
- ・授業については、英語で英語の授業を他の国からの留学生と一緒に受けていました。その他に、学部の授業も受けました。はじめは難しいと感じていましたが、友達のおかげで理解も深まり、グループでのプレゼンテーションも成功し、良い経験になりました。
- ・普段の生活については、幸運なことに、ルームメイトにも恵まれ、放課後はおしゃべりやBBQをしました。週末は少し遠くにあるショッピングモールに買い物に行かせてもらったりもしました。そんな楽しい学生生活の中でも、宿題は多く試験は大変だったので、昼休みを削ったり、テスト前は死ぬ気で勉強し、その結果満足のいく成績をとることができました。最終的に、勉強も遊びも充実した留学生活になりました。
- ・秋セメスターには主に語学学校に通っていました。語学学校ではライティング、リーディング、リスニング、スピーチ、グラマーの授業を受講していました。毎日課題が出て大変でしたが、課題を終えてからはジムに行ったり友達と映画を見に行ったりと、メリハリがついた充実した日常を送っていました。春セメスターでは語学学校に通いつつ大学の授業を受講していました。私はアメリカ政治の授業を受講しました。この授業は非常に難しい内容だったため、予習復習を欠かすことができず非常につらかったのですが、語学学校では学ぶことができない専門的な知識を学べ、私にとって非常に貴重な体験になりました。
- ・留学中は語学学校で、英語のリスニング、ライティング、リーディング、コンバセッションなど英語の基礎をつける授業を受講しました。レベル2から6まであります。語学学校で、基礎から日常会話ができる程度の力を身につけることができたと思います。レベル3、4は基礎を中心にやり、レベル5、6、

は応用といった形でした。レベル6の最後の試験では7分程度のプレゼンをやりました。レポートは5枚というとてもハードなものでした。また、後半のセメスターでは、politics [American National Government]という政治の授業を受講していました。レポートやオンラインでのディスカッションがとても大変でした。アメリカ人の友人に協力してもらい頑張りました。

- ・語学学校やインターナショナルスクール以外に大学の正規のクラスを受講し単位を修得した。生活面では、ネイティブの友達やアメリカ以外の他国の生徒とも友人関係が築け、自分の知らない他国の知識や日本とのギャップを多く感じた。また、後半はアメリカの食事を食べ飽きたので食事も自炊していた。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・留学を通して、英語力だけでなく英語を学びに来ている他の国々の文化や習慣、価値観なども学ぶことができました。また学ぶだけでなく、理解する・その文化を受け入れるという大切さも改めて身に付けることができました。
- ・文化や習慣や様々なジェンダーなどを受け入れて理解できるようになったと思います。
- ・英語力の向上と、英語をもっと極めたいというモチベーションを得ました。毎日自分の英語力の無さに痛感し、どうすれば上達するのかをひたすら考えた一年でした。この一年で得た貴重な経験が無駄にしたいくないという気持ちが帰国後に芽生え、少しでもあの頃より上達するように、独学ですが勉強を続けています。
- ・授業で発言する機会が多く、また、たくさんの新しい人との出会いがあったため、コミュニケーション能力はかなり得たと思う。出会った人たちがそれぞれ違った文化を持っているため、それらの文化に触れるだけではなく、文化を理解し受け入れ、時には一緒に実行しなければならなかった。そこでは、相手への理解力や、柔軟性が養われたと思う。
- ・アメリカ人だけでなく世界各国の人とコミュニケーションを取り、日本以外の文化や国による考え方の違いを身をもって体験することができました。それにより、留学前と比べ、自分と向き合い、集団の中の一人ではなく一個人として、自信を持って自分のやりたいことを迷わずできるようになったと感じています。そしてこの一年で身に付けた英語力と積極性は、今後の人生において大いに役立つものだと思います。
- ・自分で考えて行動し挑戦を恐れないこと、そして周りの人への感謝を忘れないことです。そのおかげで、私は英語だけでなく、国際交流会や折り紙ナイトなど、色んなアクティビティーに参加して日本の文化を紹介したり、アメリカの文化について学ぶこともできました。また、たくさんの人が私を助け、支えてくれたおかげで私はこの留学をかけがえのないものにできました。
- ・アメリカの文化は日本の文化と違い、とてもオープンな人が多いです。たくさんの人と出会い、自分の人生について考える上で幅を広げるきっかけになったと思います。また、留学中にたくさんの外国人に出会いました。留学後、帰国してからも連絡を取り合っています。
- ・語学力はもちろんだが、日本では出来ない多くの経験をし、豊富な人間関係を築くことができた。
- ・行動力だと思います。やはり留学をする上で行動力は必要不可欠であり、自分から動かなければ何も得られないと思います。留学で培ったこの行動力を就職活動に生かしていきたいと思っています。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- ・日本の文化の良さというものを留学を通して感じる事ができたので、この素晴らしさをいろんな国の方に知っていただきたいと思いました。また、たくさんの国の文化を学ぶことができたのでそれを大切に、今後も1つの枠にとらわれないこと、視野を広げて物事を考えていきたいと考えております。
- ・英語を話すことを恐れずに積極的に英語を使いたい。
- ・現地の学生はみんなたくさんの課題が毎日出されていて大変そうに見えたのですが、それ以上に生き生きと勉強に励んでいました。その理由は、彼らはみんな明確な目的や目標をもって学習しているからだと感じました。何をやるにも目的をもってやらなければ身が入らないし意味がないのだと感じたので、勉強においても就職活動においても、定まった目標をもって臨みたいと考えています。
- ・英会話力としては外国の友達と連絡を定期的に取り合う事で維持し、更に向上させたいと思います。前向きに何事にも取り組めるようになったので、資格取得や様々な勉強も積極的に行っていきたいです。

- ・英語を使う仕事につきたいとは考えていますが、何よりも留学を通じて「自分はできるんだ」と自信を持てるようになったので、また新たなことにチャレンジして、同じような達成感を味わえる体験を積んで行きたいです。
- ・この留学で得た異文化の知識と語学力、そして鍛えられた強いメンタルを活かし就職活動において希望する職に就きたいと思います。就職活動が終わっても、英語というのは世界各国で話されている言語なので、それを使い東京オリンピックなどでボランティアをするなど、何らかの形で携わっていきなりたいと思います。
- ・私は、この経験を生かして日本と海外を繋ぐ手伝いができたらいいな、と思っています。とても漠然としていますが、私ができる小さなことから始めたいと思っています。例えばアメリカでできた友達に日本を紹介し遊びに来てもらう。他には、留学の良さを後輩やいろんな人に伝え、海外に興味をもってもらう、など日常でできることからどんな形でもこの経験を生かしたいと思っています。
- ・学んだ語学力を生かし、今後の進路として大学院進学を目指し国際関係をさらに学んでいきたいと考えている。
- ・約1年間のアメリカ留学は私にとって何事にも代えがたい、非常に充実したものでした。今後この経験を活かしグローバルに活躍できる社会人になりたいです。留学は終わってしまいましたが、英語の勉強をこれからも続けていきたいと思っています。
- ・将来は海外と日本をつなぐ企業に就職したいです。2020年に開催されるオリンピックに向けて、外国人が日本を訪れる上でどのような業界が必要とされるかを考えながら将来について考えています。

日本と留学先の国との違いについて気づいたことがあれば書いてください。

- ・圧倒的な違いは授業です。日本人は控えめで自分の意見を強く言えない文化があると思いますが、アメリカに行くとそのようなこと気にしてはいられません。授業も自ら参加しないと置いて行かれ、発言をたくさんしないと授業の評価・成績にもつながります。積極的に行動しなければ何も変わらない生活でした。
- ・アメリカの大学は日本に比べて、課題の量もはるかに多く、授業ではグループディスカッションや学生が何人かで協力して一つのワークに取り組んでプレゼンテーションをしたりと、忙しそうだけどとても学生らしく勉強に励んでいました。日本の大学でもこんな風に勉強したいと強く思いました。
- ・やはり現地の方々は何事にも積極的に取り組んでいたイメージがあります。講義でも、分からないことを恐れず聞いていたり、自分の意見を積極的に発言し、周りもその意見についてどう思うかを恥ずかしがらずに発表していました。
- ・やはりアメリカは自分中心に考える人が多く、周りに流されない自分の意思を持っている人がたくさんいました。そこは日本人が見習うべき点だと思います。
- ・日本人大学生と外国人大学生です。アメリカの大学も授業は本当に大変でした。そのため学生ほとんどが、とても勉強に熱心です。そしてたくさんの方に興味を持ち常に向上心を持っています。その点は素晴らしいことだなと感じました。アメリカ人の大学生はより明確な目標を掲げ、その目標に向かって頑張っているなど気づきました。とても良い刺激となりました。

研修・留学中に困ったことはありましたか。それはどんなことでしたか。

- ・文化の理解です。語学学校にはアジア系の国出身者がたくさんいました。日本ではあまり宗教について気にかける機会が少ないと思います。しかし、留学先でたくさんの外国人と出会うことで、文化については自分の知らないことがたくさんあり、学ぶことがたくさんありました。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・Murrayはとても田舎で、休日もショッピングなどではなく友達との交流が多いです。しかし、会話が多い分、英語の上達も肌で感じられるほどでした。そのため、英語を本気で学びたい、英語だけでなく他の国の人もたくさん交流したいという方には是非Murrayに行って、貴重な経験をしていただきたいと思っています。
- ・留学をすることで人それぞれの価値観や考え方、視野が本当に広がると感じます。
- ・Murray州立大学のESLは授業も充実していて、先生たちはみんな熱心でやさしく親身になって生徒に

接してくれるのでとてもおすすめです。イベントなど積極的に参加していろんな経験をしてほしいと思います。留学前は不安だらけで泣きそうでしたが、帰国するころには帰りたくないと思うほど素敵な出会いや経験があったので、楽しんでほしいと思います。

- ・この留学を通して、何を得たいのか、どういう自分になって帰って来たいのかを明確にすると、留学が意義のあるもので終わると思います。
- ・最初は本当につらい思いをしますが、自分の知らないところでその悔しさや辛さが努力となり、良い結果として自分に返ってくると思うので、諦めずに、この留学で自分の人生を変えてやるくらいの気持ちで頑張ってください。
- ・田舎で何もない・・・そうではありません。田舎だからこそ、心が広く優しい人々がたくさんおり、遊びではなく勉強に集中できます。Murray State UniversityにはJapaneseクラブがあり、どの留学先よりも日本文化・日本人への興味・理解がある大学です。アメリカの中で語学に力を入れている大学なので、ESLを信頼でき、先生方は親身になんでも相談に乗ってくれます。やる気があればその分成長できるプログラムです。
- ・Murrayはとても田舎ですが、英語学習にはもってこいの場所だと思います。留学中、いろいろ悩んだり、思い通りにいかないことが絶対にできます。しかしそこで諦めて、なにも行動しなかったら、それだけで終わってしまいます。諦めずに何事にも挑戦し、自分で行動すれば、必ず意義のある留学生活を送れると思います。
- ・Murray State University は学生にとって最高の留学先だと思います。東京と違い田舎の街ですが、自然にふれながら勉強に励む事が出来ます。休みの期間を利用して様々な場所へと旅行する機会を得ることが出来ます。留学経験は、将来に向けて視野を広げるきっかけとなりました。ぜひ一歩踏み出して挑戦してみてください。
- ・短期留学だと英語などに慣れるだけで終わってしまう事があると思いますが、特に長期間留学する際は、英語が話せるようになるなどの漠然とした目標ではなく、何か一つ明確な目標を持って留学する事をお勧めします。
- ・私は現地についた当初、英語が聞き取れず非常に苦労しました。留学に行く前にある程度英語力をつけて行ったほうがよいと思います。初めは不安だと思いますが、慣れれば楽しくなります。限られた時間の中でいかに有意義に過ごせるかは自分次第なので頑張ってください。

研修・留学名：カリフォルニア州立大学チコ校 長期留学（アメリカ）

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・ALCIでは基本的な「読む、書く、話す、聞く」が主な授業で、応用というより英語に慣れようとする授業。大学は科目によって違うが、私が受けたのはリスニングとスピーキングが主な授業だった。
- ・授業以外の学習は課題やホストファミリーと話すこと。あとは時間が出来たらディクテーションなどをしていった。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・なんとかなるだろうという精神力、わからない事は何でも聞く精神と発言する勇氣

研修・留学名：カリフォルニア大学リバーサイド校 長期留学（アメリカ）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・同じくらいのレベルの、様々な国の人と一緒に受けた日々の授業です。私たちの共通言語は英語なので、授業中はもちろん常に英語が飛び交っていました。そのような環境の中で、友達と切磋琢磨しながら語学や異文化を学ぶことができました。
- ・多国籍の学生に囲まれて授業を受けられるので、アメリカの文化のみならず、様々な文化に触れること

ができたこと。

- ・チャレンジ精神のある友人や熱意を持った教師がおり、自分から意欲的に挑戦しようと思える環境で勉強をできたことです。また英語の授業だけだからこそ、英語という一つの科目に多方面のアプローチから取り組む事ができ、結果として英語力の向上につながったと感じます。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・最初の2クォーターはIEPという集中英語プログラムでクラス分けテストを受け、7つのレベルに分かれて、主に英語の4技能を学びました。そしてElective classでは、Oral skillとbusiness Englishの授業を受講しました。最後の3クォーター目はEIBというインターナショナル・ビジネス英語プログラムで、知識はありませんでしたが、アメリカのビジネスで求められる英語力、知識やスキルをプレゼンテーションなどを通じて実践的に学びました。毎日課題が多く出されていたので、人生で一番勉強し、当たり前のように遅くまで勉強していました。また、本キャンパスのオセアニアダンスクラブにも所属し、ショーにも出演しました。
- ・留学先ではReading, Writing, Speaking, Listeningの授業が毎日あり、そのほかに選択授業として、英語で環境問題やビジネスについて学ぶ授業がありました。特に印象に残っている授業は、三人グループでテーマに沿った研究をしてクラスメイトの前で発表するというものです。グループのメンバーと何度も話し合って改善し、発表を成功させたときには大きな達成感がありました。授業以外の活動として、私はメインキャンパスのテニスクラブに参加していました。そのテニスクラブのメンバーの多くは現地の大学生なので、最初は会話が早くついていけないことが多々ありましたが、積極的に話しかけて友達を作り、ホームパーティーやテニスを楽しみながら楽しむことができました。
- ・英語で論文のようなものを書いたり、英語を使って異文化間の価値観の多様性や国際問題を学びました。週末にはロサンゼルスやビーチなどに遊びに行きました。
- ・読み書きやスピーキングはもちろん、選択授業では実際にネイティブスピーカーが日常生活で使うようなイディオムを習えるクラス、エッセイで使えるようなアカデミックな単語を習うことができるクラス、小説と映画を読み、鑑賞し、相違点や合致している点、作者の狙いやテーマを考察し、作品ごとにエッセイを提出するクラスなど。ディベートやプレゼンテーションなども多く授業に取り入れられていました。
- ・英語の授業で、クラスのレベルによっても変わりました。個人として留学中にはリーディング、ライティング、スピーキング、グラマー、ボキャブラリー、プレゼンテーションなどのクラスを受けました。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・留学から得たものは、自分の財産です。留学させてもらえたことによって、日本では出会うことの出来なかつた沢山の人や物に出会い、いかに自分が井の中の蛙であるかを知りました。そして、自分の考え方の視野が大きく広がりました。財産として得られた英語力、思考力、行動力などは、これから社会に出て様々な場で様々な人と交流していく上でも大切だと思っています。
- ・英語のスキルだけでなく、世界中の友達ができたり、様々な国の人と関わることで物事に対する考え方の視野が広がった。
- ・積極的に学ぶことの大切さです。私のクラスにはサウジアラビア、中国、韓国や南米などからの留学生がいました。彼らの学びへの熱意は圧倒されるものでした。それに刺激を受けて、自分も学べることはどんどん吸収していこうと思いました。
- ・英語の習得はもちろんのこと、他の国の文化にたくさん触れ、海外文化の意識も上がった。英語が徐々に話せるようになった、と感じるとともにもっと努力しようと思えるようになった。
- ・一人で行動することの勇気と誰とでも仲良くなる力を身に付けました。
- ・語学力はもちろんですが、この留学を振り返り自分自身におきた変化といえば、かなり積極性や行動力が出てきたことです。自分から行動をしなければ何も始まらない、他の留学生よりも多くのことを学びたいなら自分から考えて行動しなければ差はつかないことを実感しました。また、留学をすることで沢山の友人を作ることができ、帰国後も英語を使ったコミュニケーションがとり続けられることは大きな利点だと思います。

- ・学習面では英語力、生活面では多くの友人が、留学中に得られたものでも大切なものです。また国による文化の違いを友人たちから教わる事ができたため、世界には様々な国があるという事を、紙の上の勉強としてではなく友人の持つ文化として実感、理解することができました。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- ・近年日本では海外に目を向ける企業が急増し、2020年に東京オリンピックも控えているため、さらにグローバル人材が必要とされていくと思います。なので、自分の留学経験で得た語学力、思考力や行動力などを会社やボランティア活動を通じて、日本社会に貢献し、世の中の役に立ちたいと考えています。
- ・海外につながるの行事や交流などがあったら積極的に参加したいです。また、日々の生活や授業の中で留學生活の経験を結びつけて物事を考えていきたいです。
- ・身についた英語力を維持するために、英語を使うアルバイトを行い、自主学習をより大事にし、現地ですべきた友達となるべく連絡を取り合っていく。大学を卒業したら英語を使った仕事をしていきたい。学生の間には、海外ボランティアに参加する。
- ・東京という外国人が多い地域で生活しているため、困っている方がいたら手助けをしたり、そのような方をサポートできる職に就きたいです。
- ・勉強する習慣、自分から行動する習慣、たとえ直面した課題が難しくてもとりあえず粘って何か結果を残そうと努力する習慣などを生かして、自分に興味のある事にチャレンジしたり、資格の取得にチャレンジしてみようと考えています。せっかく培ってきた英語力を失わないように英語を使えるようなアルバイトに挑戦したいと考えています。
- ・留学することの面白さを少しでも多くの方に伝えていきたいです。また、留学を通じて、何事もやってみれば何とかなる、何とかできる、ということに気がきました。この事は人生において逆境に立ち向かう時に必ず活かすことになるだろうと確信しています。またこの留学で得た友人たちは一生の友として関係を続けたいと思います。

日本と留学先の国との違いについて気づいたことがあれば書いてください。

- ・リバーサイドの人たちはみなフレンドリーで、街を歩いているだけで服装や髪形を褒められたり、買い物に並んでいる短い間でも会話がすぐ始まるような街でした。また先生と学生の距離が格段に近いことは大きな違いの一つだと思いました。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・海外で生活するとなると、旅行とは全く異なります。現地では、想像よりも現実は厳しく、カルチャーショックを受けることも多々あるはずですが、しかし、その悩んだ分、涙の数だけ、乗り越えれば必ず成長できると思いますので、様々なことに挑戦し、有意義な留學生活を送って下さい。そして、常に日本から応援してくれている家族や先生、友人などへの感謝の心を忘れずに。
- ・英語だけでなく、留学は学べる事がたくさんあるので、ぜひ有意義に過ごしてほしい。自分が留学に行くことでお世話になった人への感謝の気持ちを忘れないでほしい。
- ・私はこの留学を通して、今までの人生の中で最も濃くて有意義な9か月を過ごすことができました。積極的に学んで、いろんな国の友達を作り、アメリカでしか経験のできないことにたくさん触れてください。
- ・もし留学に行けるのなら出来る限り行ってほしいです。必ず自分の中にある何かが変わるし、やりたことへの意識が上がると思います。語学だけでなく、あらゆる部分に触れることができ、違うこと、また新たな挑戦を見つけられる場所でもあるなと感じました。

この研修・留学について何か要望があれば書いてください。

- ・留学は必ず良い経験になると思うので、ぜひたくさんの人に体験していただきたいです。
- ・自分たちが想像している以上に海外の学生たちは日本に関心があり、沢山質問をされます。知っているようで知らないことが沢山あるので日本についての知識を深めるとよりお互いの文化を知ることができると思います。
- ・どんな小さな事でもいいので、自分なりに留学に行く理由や、留学で達成したい目標を見つけてみて下さい。それがあればどんな場所でも自らを成長させられるはずです。

研修・留学名：ダグラスカレッジ 長期留学（カナダ）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・毎日の充実さです。様々な国から来ている人がいたからこそ、毎日のように異文化を感じ新しい発見があっってお互いの文化を共有したり、同じ留学生と切磋琢磨してお互いに教えあったりしながら英語を学ぶことができたと思います。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・3セメスターを通してESLの授業を受けました。スピーキング力の向上が1番の目標だったので、授業内はもちろんですが、授業外では、ネイティブ、アジア出身関係なく、とにかく英語でたくさん話すよう努力していました。分からない部分は友達や先生に分かるまで聞くようにし、毎日英語で日記を書いてライティングの力をつけたり、週末は映画を1本みてリスニング・リーディング力をつけるなど、分野に合わせて学習法を考えていました。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・一番は言語習得です。人とのコミュニケーション、自分の意見を相手に伝えること、留学を経てその力がすごく伸びたと思います。あとは、異文化理解やたくさんの人の考えを吸収できたことです。様々な学歴、職歴を持っている人がいて、それに刺激を受けたし、自分を見つめなおすきっかけにもなりました。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・アジア出身だからと言って交流する機会をなくさないこと。たくさんの人と話すこと、友達になることは留学においてすごく大切な、と私自身思った。バンクーバーは本当に多人数の町だし、皆それぞれがしっかりとやりたいことを持っているから、話すことにためらわないでほしい。あとは、何事も失敗を恐れない。

研修・留学名：北京師範大学 長期留学（中国）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・一年間の留学を通して最も有意義だと感じたことは、クラスに日本人一人という環境で授業を受けることが出来たことです。大学から一人での参加となり初めは誰にも頼ることが出来ませんでした。一方でそれがきっかけで多くの人と交流しながら中国語を学ぶことが出来ました。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・授業は45分授業が二つで一コマという形でしたが、一日二コマしかなかったため予習復習に十分力を入れることが出来ました。また授業ではPPTを使い日本の生活や文化を紹介してみたり、クラスメイトとペアを組み寸劇をしてみたりとどれも楽しいものばかりでした。週末にはクラスメイトみんなでご飯を食べたり、北京市内を観光したりととても有意義な時間を過ごすことが出来ました。生活面では寮での生活でしたが、安全面もしっかりしており不安のない日々を送ることが出来ました。特に食事については学内の学食はもちろん学校周辺にレストランが多くあるため、充実した食生活を送ることが出来ると思います。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・この留学を通して一番は積極性を得ることが出来たと思います。日本での授業と違い、留学先では常に積極性を求められました。中国と比べ自分の国はどうであるか、また中国にきて何を感じたかなどクラスメイトの前で発言する機会がとて多かっただよに感じます。おかげで、語学が完璧ではなくても積極的にいけば相手ともコミュニケーションをとれるという自信に繋がりました。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- ・一年間の留学で得た中国語はまだまだ実用的なものではないので、今後さらに知識を高め、将来就職し

た際に何か役に立てばよいと考えています。また日本への中国人観光客が増えている中で、自分の経験が少しでも人の役に立てればよいと思います。

研修・留学名：国民大学校 交換留学（韓国）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・様々な国の人々と出会えたことです。仲の良い韓国人の方にはご自宅に招待していただき、お母様の手料理をご馳走になったこともあります。また、私と同様に韓国留学している方々ともたくさん交流できました。楽しく会話をしながらお互いの国についての話をできたのは意味あることだったと思います。そして現地生活を通して韓国の文化や習慣への理解も深まりました。
- ・勉強に熱心な学生が多いため、テスト期間になると、校内にフードワゴンが設置され、勉強の息抜きに屋台料理やカフェメニューなどを食べることができます。また、校内も夜12時近くまで開いているため、友人と一緒に学校で遅くまで勉強をして、ガラス張りのエレベーターで夜景を見ながら寮に帰る時間がとても楽しかったです。ですので、テスト勉強も辛いとは感じませんでした。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・前期は語学中心に授業を受けました。留学前は挨拶程度の能力しかなかったので、生活をするうえでも必要最低限の文法を学ぶ必要があったからです。後期はディスカッションやプレゼンテーションをする授業も履修しました。
- ・生活面もかなり充実していました。韓国語力が乏しかったので、授業のない日もほとんど机には向かっていましたが、買い物に行ったりご飯を食べに行ったりして楽しむことも忘れないようにしました。
- ・語学関連の授業の他に、日本学科の授業や体育、また、聴講で衣装デザイン学科の授業を受けました。日本学科の授業では、日韓の歴史問題や、自殺、雇用問題、教育などを韓国の学生と話し合いました。体育の授業では、韓国の学生と会話をしながら取り組むことにより、新たな友人ができ、より実践的な語学力を身に付けることができました。衣装デザイン学科の授業は、とても難しかったですが、韓国でトップと言われるレベルの授業を聞くことで、同じ服飾を学ぶ者として大きな刺激を受けました。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・一つ目は挑戦力だと思います。初めは部屋に籠りがちでしたが、外で人に会い、話すことも勉強だと感じてきてからは、一人でも様々なところに行きました。恐れずに行動してみる強い心は、生活していきながら徐々に身についたのではないかと感じています。二つ目には感謝の気持ちです。両親や日本にいる友人にも、今までよりももっと“ありがとう”の気持ちが芽生えました。
- ・少人数の授業が多いことから、学生同士の意見を実際に交換し合う授業が多かったため、様々な価値観に触れ、客観的に物事を見る大切さに改めて気づきました。また、学ぶことに対して意欲的な学生が多いことに刺激を受け、学ぶことの喜びを感じました。自分の専門分野に限らず、様々なことに興味関心を持つようになり、視野が広がりました。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- ・仕事で生かしたいと考えています。韓国で生活して得た“私だけの感性”を活かして働くことが夢です。また韓国に興味を持っている人、留学をしてみたい人の手助けに少しでもなれたらよいなとも思っています。加えて韓国のことを誤解している人も多いのが現状ですから、韓国という国をしっかりと理解してもらえよう、自ら発信できたらと考えています。
- ・まずは韓国語能力試験を受けて自分の実力を再確認して、まだまだ未熟なところを伸ばしていきたいです。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・まずは楽しんでください。あらゆる目的で参加することと思いますが、終わってみるとすべてが自分の財産に変わります。楽しみながらあらゆるものを経験し、挑戦してみてください。また、両親や友人、身の回りの人への感謝を忘れないでください。周りの支えがあって今のあなたがあります。辛いこともあるとは思いますが、後悔しない研修・留学にしてくださいね。

- ・国民大学校は学部数が多く、たくさんの魅力的な授業があります。交換留学という形で留学ができることの利点は、他国の大学の授業をその学校の学生と共に、実際に受けることができるということです。ですので、留学前にある程度の語学力を身に着けることで選択肢も広がり、自分の学びたいことを学ぶことができ、有意義な留学生活を送ることができると思います。

研修・留学名：明知大学校 交換留学（韓国）

研修・留学に参加し最も有意義だった事柄は何ですか。

- ・約5ヶ月間という長い期間韓国で暮らす事で、生活に必要な単語などを学んだり、現地の学生だけでなく、同じく韓国語を学ぶ日本人との出会いや、多くの諸外国の友人との出会いがあった事が、有意義だったと感じています。

研修・留学ではどのような授業を受けましたか。また、授業以外の学習や生活面の経験はどのようなものでしたか。

- ・語学（文法、活用、中級、会話）
- ・授業以外では、他国の友達と外出したり、食事をする事で、韓国だけでなく他国の文化、語学も実際に聞いたり感じたり、また、自文化を教えたりすることもあり、授業外でも積極的に語学を使うことで耳も発音も慣れて行ったと感じています。

研修・留学に参加して、何を得たと思いますか。

- ・一人で留学に行ったため、不安も多かったのですが、たくさんの友人が助けてくれて、話す言語が違えど、親しくなれた友人たちがいてくれて、とても力になり、また、楽しかったと感じています。もちろん、5ヶ月間に及ぶ、語学の授業のおかげで、目的である語学の取得は、かなり得られたと思います。

研修・留学に参加して得た経験を、今後どのように生かしていきたいと考えていますか。

- ・これから先も、まだまだ韓国語（語学）を学んで行きたいと考えているため、今後の学習や、実際に街で困っている韓国人を、手助けするためにも語学力だけでなく、積極性も生かして行きたいです。また、就職活動にも、忍耐力、積極性、語学力を活かせるようにして行きたい。

来年度以降の研修・留学に参加する後輩へのアドバイスをお願いします。

- ・たとえ一人であっても、半期だけでも、現地で語学を学べるという環境がとても整っているのので、少しでも興味がある人は、検討してみてほしいです。現地の学生たちのサポートも厚く、立地も、都心に位置するため、授業外でもとても楽しめると思います。事前に、韓国語が「読み書き」だけでなく「会話」がある程度、堪能であると良いかと思います。

プログラムの内容は毎年変わりますので、アンケート内容と異なる場合があります。

国際センターインフォメーション

■千代田校 国際交流支援グループ

〈設置場所〉 別館(J棟)4階J410室

〈開 室 日〉 月曜～金曜:午前8時30分～午後4時40分
土曜:午前8時30分～午後1時10分

〈連 絡 先〉 〒102-8357 東京都千代田区三番町12番地
電話番号:03-5275-6310

■多摩校 学生・就職支援グループ

〈設置場所〉 4号館(図書館棟)1階

〈開 室 日〉 月曜～金曜:午前8時50分～午後5時00分
土曜:午前8時50分～午後1時30分

〈連 絡 先〉 〒206-8540 東京都多摩市唐木田2-7-1
電話番号:042-372-9989

■国際センター ホームページ

<https://glbc.otsuma.ac.jp/>